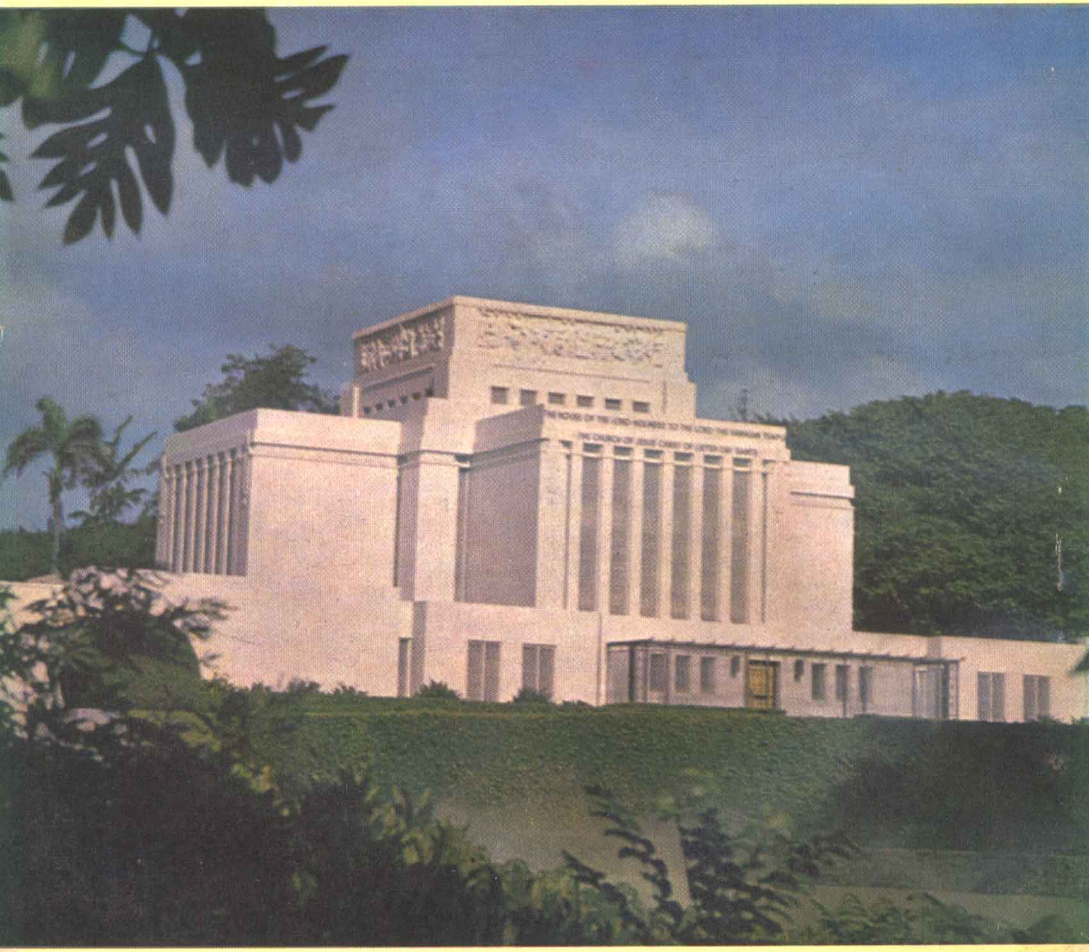
聖法の道 7

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第7号　1965年7月1日発行

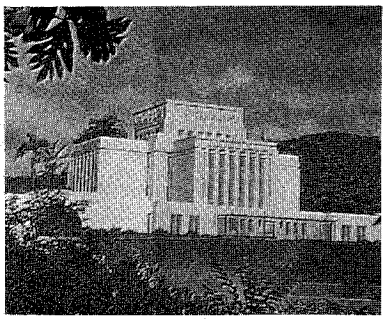
SEITO-NO-MICHI



聖徒の道 第9巻 第7号

1965年 7月号

表紙—7月22日に訪問するハワイ神殿は，1919年11月27日の感謝祭の日ヒーバー・J・グラント大管長によって献堂された神殿です。



ハワイ神殿

―もくじ―

永えのつれあいの選択……デビド・O・マッケイ……313
神殿訪問とその協力者……ダワエン・N・アンダーセン……317
ニューヨーク世界博覧会のモルモン館……リチャーズ・J・マーシャル……319
新世紀の宣教師の集会 ―日本伝道部の発展はつづく―……326
私たち家族の証詞……鈴木吾郎……329
人生の目的《ブリガム・ヤング大学製作》……330
足並そろえて―協力することの偉大さ……332
ソルトレーク大会への出席報告……佐藤竜猪……337
地方部のページ・北海道とキリスト教……潟沼誠二……340
西部建設のモルモン教徒開拓者記念に際して……343
北の国にシオン建設の槌音―札幌支部建設はじまる……349
地方部のページ・西中央地方部大会……352
支部だより・旭川支部その他……354
《詩》ユタへ―開拓者の足跡……エドワード・L・ハート……358
ストーカー長老と日本語聖書……366
物語―神殿の祝福……淑江ウォールベック……367
えいごのページ……371

ページ

―カットは 石井尊士・雨宮保由兄弟の提供です。

大管長　テビド・O・マッケイ

もしも私たちがほんとうにイエス・キリストを信任しているならば、私たちはたしかに、「救い主」の男らしさに劣らぬ男らしさをもちたい、その優しさとおなじ優しさを育て上げたい、その純さとおなじ純さがもちたい、「救い主」が人を許したもうとおなじように人を許したい、またその罪のない完全な生活を、いつも私たちのただ一つの望み、私たちの切なる願いにしたいと言わざるを得ないにちがいない。

大管長メッセージ

「永えのつれあいの選択」

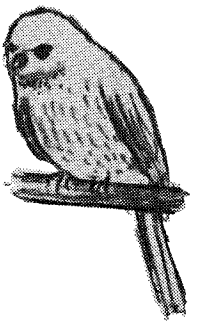
大管長　デビド・O・マッケイ

結婚の相手を選ぶに当って生涯の旅を共にしようとする者の気質、遺伝、育ち、しつけなどを学んでおく必要があります。正直、忠実、貞節、敬虔などの性格を見出すことが如何に大切であるかおわかりでしょう。

そしてそれを見出したら貴方は〝何かお互いに血の通うもの少くとも結婚する程に気のあったところがないだろうか〟と、考えるでしょう。もしあるとすれば何をガイドとしてでしょうか。愛は常に必ずしも真のガイドとはなりません。特にそれが一方的な愛であるか又は知性の低い、動物的な愛の場合においてそうであります。けれども愛なくして幸福になり得ないことは事実であります。そうしたらどうして私は愛しているということを知るでしょうか。

これは非常に大切な質問であります。数十年前のある夜、私はユタ大学で級友と語り合っているうちにこの問題にぶつかりました。その年頃の若い人だちにありがちなように私たちは女性について語り合いました。彼も私も恋愛したことがあるのかどうかわかりませんでした。もち論私はその時まだ、今日この六十四年以上の私のスイト・ハートである妻と逢っておりませんでした。私と共にその夜歩いた級友は後にYMMIAの管理会長、伝道部長、十二使徒会補助及び使徒になった故ジョージ・Q・モリス長老であります。

〝私たちが恋愛していると、どうしてわかるだろうか？〟という私の質問に対してジョージは答えました。「私のお母さんはかってもしも貴方が女性に逢って、自分は最善を尽して立派な人になりたいと霊感されるような若い女性であれば愛する価値の



ある人、貴方の心に愛をめ覚めさせる資格のある人ですと言いました」と。

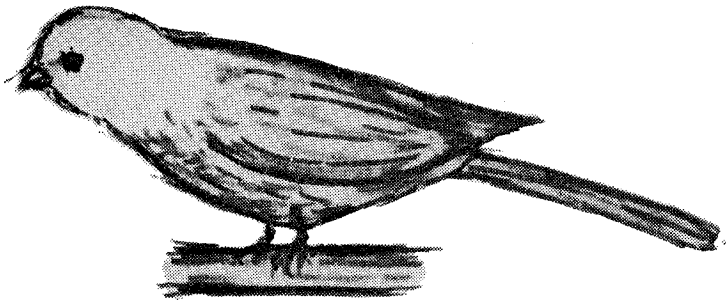
私はこの級友の言ったことが真のガイドであると思います。そして皆さんがこれを自分のガイドとするように望みます。

コート・シップは素晴らしい時期であります。それは神聖なものであるべきであります。それが貴方がそのつれあいを選ぶ時であります。若い男性の皆さん、貴方の生涯の成功はこの選択にかかっているのであります。祈りをもって、貴方が最善を尽くすように霊感されるような人を選びなさい。そして常に誰も貴方の愛を傷つける者はないことを覚えなさい。

私たち年をとって貴方たち若い人の大いなる能力を知っている者たちは貴方たち若い男女が神から与えられた感情を発散させる時に臨んでいることに気づきます。若い人たちよ、その道を過ってはなりません。貴方たちは肉体的な天性が発揚される時期に臨んでおります。けれども同じこの時期に神は貴方たちに理性の力を与えております。神は貴方たちに判断力を与えています。そしてこれらは神性な目的の為に与えられておるのです。理性と判断力をして貴方のガイド標準としなさい。

貴方は、がたがたと律動的に震動して、動力を出し、熱を分散している機械の傍に立ったことがありますか、このようなすえ付けられた機械に貴方はバランスを見出すでしょう。そのバランスがなかったら建物は破裂するでしょう。けれどもその熱を強化するとそのバランスはだんだん失われてすべてを監視しなければなりません。貴方は貴方の感情にバランスするように理性と判断力を持っております。このバランスを失わないようにして下さい。そうしないと貴方の生涯を破壊する爆発が生ずるかも知れません。

今や幸福な結婚生活の種が若人の中にまかれました。それは若いコート・シップの時期に始められるのであります。この幸福の種は貴方の発揚される感情を支配する能



力によってうえられるのであります。貞節が貴方たち若人を支配する徳でなければなりません。教会においてはただ一つの標準しかありません。それは男にも女にも適用されます。もしも貴方が真にその標準に従っているなら、もしも貴方が自分の良心のささやきに従っているなら貴方は若い時に自制を学ぶでしょう。そして道徳の標準に従う時、雄々しい男性となり、美しい女性として冠をかぶせられ幸福な家庭の基を固め、いつまでも人生行路を進み続ける力を与えられるでありましよう。

若い時のふしだらは生涯かかって支払わねばならない約束手形であります。二十年三十年四十年かかって貴方はそれを支払わねばなりません。自制と貞節も又まけば大きな配当をもたらす種であります。そしてこれらの時間は速く、実に急速に過ぎて行くのであります。

若い男性たちよ。貴方がたが女性をパーティに伴って行く時に娘の両親が貴方に信頼している事を覚えて下さい。彼女は彼らの宝であります。私が十代で若い娘さんと共に歩き始めた頃私のお父さんが大切なことを教えてあげようと言って「デビド貴方は若いお嬢さんをちょうど他人に貴方の妹さんに対してしてもらいたいようにしてあげねばなりませんよ」とさとされたのを覚えております。若い男性たちよ、この忠告に従いなさい。そうすれば貴方は生涯良心的に行動出来るでしょう。

夜に日が次ぐようにコート・シップに結婚が次ぎます。そして結婚は家族を育てるという神性な目的を持って居ります。それは愛のうちに協力して子供の世話をするという機会を提供してくれるのです。子供なくしてあるいは子供たちは大切であると信ずることなくして結婚は不完全であり又成就されません。

ほんとに私たちはすべての人を愛するように、すすめられております。そうです私たちは今すべての人を愛すべきであります。けれども貴方も私も私たちは私たちの最もよく知っている人を愛していることを知っております。私は小さな愛する子供たち

の為に自己を捧げている彼女を、そしてその子供たちの為に共に祈り共にあこがれた彼女を愛しております。

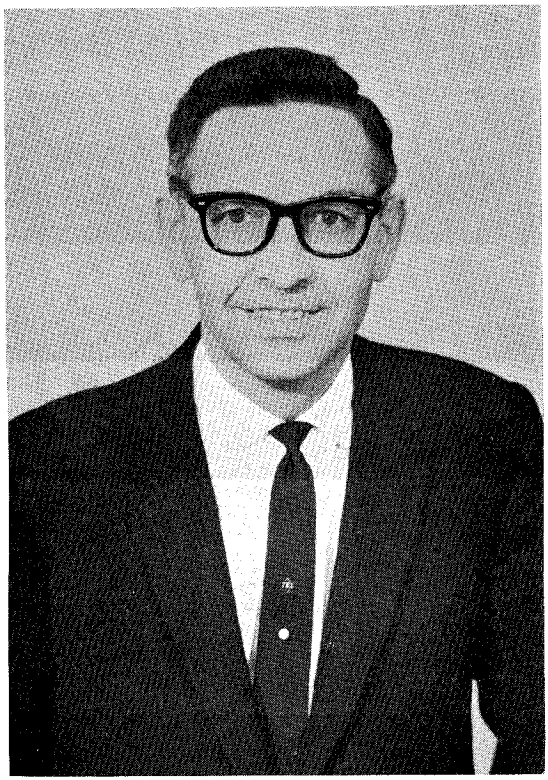
六十四年間以上の結婚生活を通じてマッケイ姉妹と私にもたらされた幸福は私たちが七人の子供（その内六人は生存しています）を持ったことから来ております。この子供たちは私たちの孫及び曾孫と共に私たちの永遠の宝であります。

私は又私の為にその生涯を捧げて下さった私の母親をも愛しております。私たちが永遠の世界において、これらの人に逢う時、この世の生涯の経験の故に私たちは彼らを知り認めるでありましょう。そしてその愛の結合はこの生涯の後も永遠に続くのであります。その為にこそ私たちは結婚し、この世においても、又永遠にも結ばれるのであります。それは単に教会の教義であるばかりでなく全人類の人生と幸福の根本である真理であります。貴方の愛を誓い、貴方の誓約を潔める主の家を選ぶことは賢明なことであります。

最後に私はそのような結婚が如何に大切なものであるか皆さんに一言申し上げたいと思います。聖壇にひざまずく新郎は夫として持ち得る最上の気持、今彼にその手をゆだねて結婚の誓約をしている彼女は太陽の光のように清く、新しく天から降って来た雪のように純白であると言う確信を持ちます。彼は彼女がその純潔と甘さのうちに神性な母性愛を代表することを確信するでしょう。

同様に若い女性が自分自身を捧げて結婚する自分の愛する男は、彼女が彼にもたらしたと同様の純潔と力をもって彼女に来ると言う確信はすう高なものであります。このような結合が真に創造の栄光の為に神の聖任し給うた結婚であります。

若い皆さん、貴方がたが永遠のつれあいを思うことは天性として相続されたものであり私は皆さんがそれを自覚してその尊い理想のうちに真の喜びと幸福を見出されるようにお祈りする次第であります。



ダワエン・エヌ・アンダーセン

山中健次郎兄弟

伝道部長メッセージ

神殿の扉を開けよ。古きアジヤの地に新世紀のれい明は訪れました。神は東洋の子供たちに主の家に行って、日本語で神聖なエンダウメントと結び固めの儀式を受けるように召しております。誠実な多くの日本の会員の夢は今や実現しようとしております。この瞬間永遠の進歩をとめる鎖を断ち切る救いの儀式を待ちこがれていた先祖たちが興奮して群がって参ります。

"見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは予言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。（マラキ書四：五―六）

ハワイ神殿訪問計画はこの聖文の成就の始まりであります。神殿を訪問する人たちの心は、ほんとに彼らの先祖たちの心に向けられました。そして彼らの先祖たちは自分らに昇栄と永遠の生命を得さ

せる道を開く仕事の開始であるこの計画を眼を見張って見つめております。これら先祖たちの為に神殿の儀式がほどこされるようにクレヤする為に約一千枚の家族の記録がすでにソルト・レークの系図協会に送られました。これは誠に、日本と沖縄の聖徒たちにとって真に大いなる日であります。

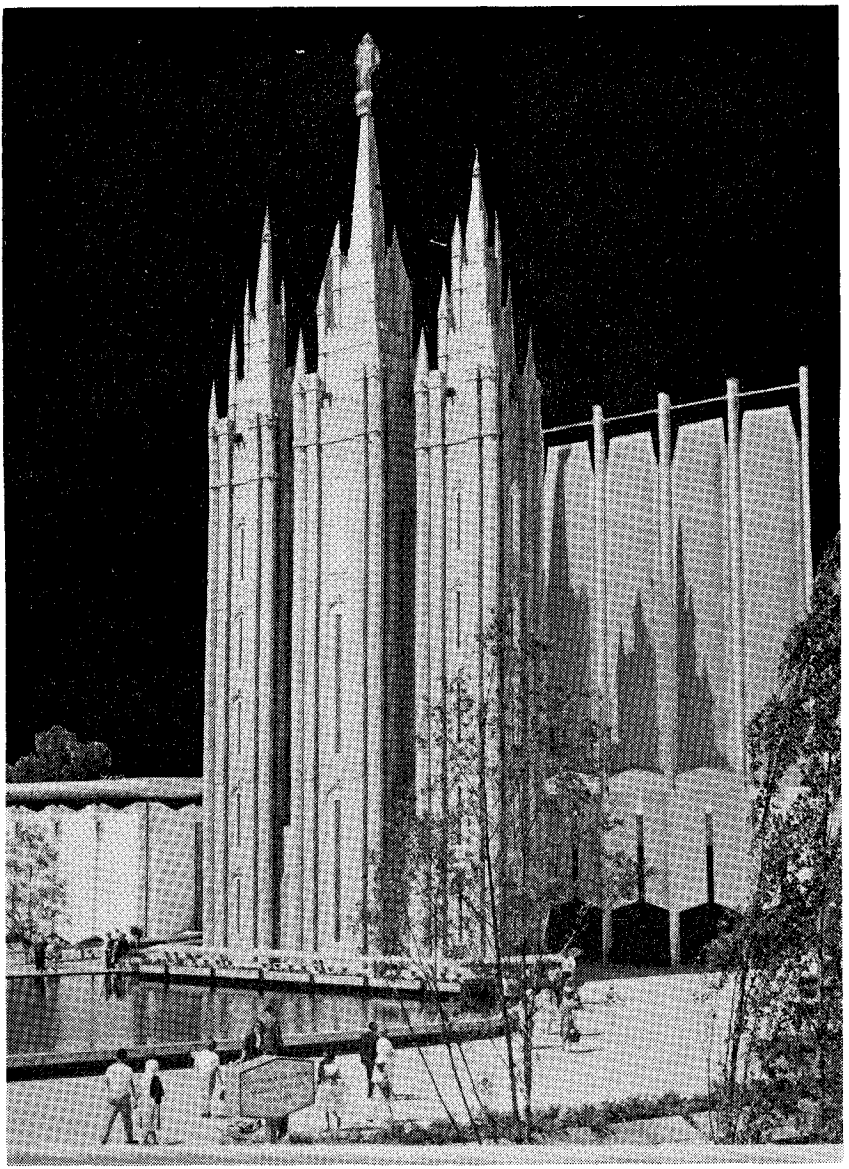
この素晴らしい計画を可能にする為に多くの祈りと努力がなされて来ました。私はこの偉大なる仕事を遂行する道を開いた主のたすけと祝福をよく知っております。けれどもこの計画が今や現実に可能となって来たことは私には奇蹟であります。私はこの神殿計画の実現に献身的努力をした素晴らしい会員山中兄弟に特に称讃の言葉を送りたいと思います。彼は山中健次郎兄弟であります。山中兄弟は友人であるモルモンの一軍人を通じて教会に来ました。レッスンを受けてから、六十回目の誕生日の一九六三年の六月十二日にバプテスマを受けました。

彼は学業と職業に興味ある経歴を持っております。彼は一九二七年に早稲田大学の教育学部を卒業し一九三三年に同大学の文学部を卒業しました。九年間彼は高輪商業学校の先生をしました。彼は新聞記者をも務めました。一九四七年から一九五一年迄彼は東京武蔵野市の市会議員を務めました。又教育委員会々長、警察行政委員会々長、民生委員及び財務委員会々長も務めました。一九五一年から一九五五年迄、彼は日本に於けるユネスコ教育文化連盟の総務部長を務めました。一九五五年に彼は退職しました。けれども四年間徳川林政研究所長の徳川氏の秘書を務めました。その後退職しましたが、一九六一年から真珠の販売に従事して来ました。その真珠の仕事が彼をしてモルモンの友人であるフランク大佐と接触させたのであります。

一九六三年の夏の間、山中兄弟はアメリカから来た大学教授及びその奥さんたちの旅行団の世話役を務めました。その中にモルモンの一夫人がいて教会の事について彼といろいろお話を致しました。彼女はある日本の聖徒たちのソルト・レーク訪問について提案しました。山中兄弟はそれを考え、計画し始めました。彼はその費用とその捻出方法についてよく調べました。そしてソルト・レーク市訪問団の可能性について討議しました。私は会員たちの状態を知っていますのでソルト・レーク市訪問は財政的に到底不可能であると信じ彼にハワイに行く可能性について調べるように頼みました。私は監督であった時に何度か神殿訪問計画を実行し多数の夫婦の神殿に行く準備を致しました。私は日本人指導者を養成するのに大きなたすけとなるのは神殿訪問であると感じました。けれども私は会員たちがそのような長い旅行をすることは財政的に不可能であると感じました。しかるに山中兄弟はハワイ神殿旅行の可能性について私の眼を開いてくれました。山中兄弟の友人を通じて真珠が市価よりも安く購入され資金をつくる為に用いられました。他の友人が〝LDS聖徒らは歌う〟のレコード作成を手伝ってくれました。始めは二十組の夫婦をハワイにつれて行く計画でしたが、だんだん大きくなって一機の飛行機をチャーターすることに決定するに至ったのであります。山中兄弟はこの資金をつくる為又、私たちの支払可能の程度に飛行機をチャーターする為に数百時間無報酬で働らきました。山中兄弟の親しい友人である日本航空販売部の副部長をして居られる松村氏が会員たちが経済的負担の可能な範囲に飛行機をチャーターして下さったのであります。

（357ページへつづく）

ニューヨークのモルモン館



ニューヨーク世界博覧会のモルモン館

リチャード・J・マーシャル

暗い冬の夜を通して、光り輝いたソルト・レーク神殿模型の尖塔がその十二階の高さに、まばゆい天使モロナイの像を載せて長い島影に、クッキリと映えて、立ち続けて来ました。これがニューヨークの世界博覧会のモルモン館であります。

博覧会が閉じられていた六カ月間、黄金の天使は道路を走る車の人たちによって日夜見られ、沈黙の内に末日聖徒イエス・キリスト教会は遂に故郷へ帰ったことを証したのであります。モルモン教徒はニューヨーク州、アメリカ東部の人たちの心の中に見捨てられてしまったわけではありませんでしたが今や、完全な力をもって回復の揺籃の地に戻って来ました。

トロント電報は言っております〝ニューヨーク世界博覧会はモルモン教徒を再認識する新時代を招来した〟又有力なニューヨークタイムスは指摘しております。〝一八四六年モルモン教徒が西方に行ってからモルモンの指導者たちの最大な集りが昨朝、神の手にモルモン館を献堂する為に開かれました。〝ニューヨーク毎日新聞はヒュー・B・ブラウン副管長の次の言葉をも含めて献堂式の重要な事項を掲載しました。〝それは全世界のすべての人にイエス・キリストは最も偉大な神の子であることを思い出させることでしょう〟新聞や国民雑誌に印刷された四万五千行のモルモン館記事を一覧して見ますと約その九十九パーセントが〝心から歓迎〟しております。

四月二十一日世界博の職員が世界最大の博覧会の名ごり惜しい最後の六カ月間を開幕しようとするに当って一九六四年度の成果が注目されました。ではどのような成果であったのでしょうか。ではモルモン館の成果はどうであったでしょうか。他宗派の宗教館、他国民の民族館及び巨大な産業館と比べて、あるいは又四万五千の活動部分を備えた自動動物、素晴らしい見世物のディズニーの機械像、ミケランジェロのねぶみ出来ない〝ピエタ〟又はフォードの動く穴居人及び実物大の恐竜の生存する有史以前の過去を行く魔法のような空中乗り、それらと比べてどうでしたでしょうか？

八十五パーセント以上の催物が無料で史上最も安い入場券であると言われて来ました。ただ時間だけが制約され或一団の人は六百四十六エーカーの地域に散在した各催物を

見るのに一日十二時間で、まる十二日間かかったのでした。

けれどもニューヨーク世界博委員会は、すべての催物の訪問者数において最高十パーセントの中にモルモン館を挙げました。計算したところによりますと第一期間中に実業界に有名な催物などほとんどのものに勝って約三百八万一千人の人が教界の広大な陳列場及び催物の部屋を通過しております。一時間に三千人近くのお客さんが小さな組に分れ宣教師の案内でモルモン館に足を運んだのでした。一日に三万四千人もの人がモルモン館を通過しましたが、これは最もすぐれた催物でも容易に達しない数でした。モルモン館が人目をひいたその成果について、ユナイティド・プレス・インターナショナルは、〝注目すべきは、二百万の会員を擁するモルモン教会が、世界博一九六四年度の終りに三百万のモルモン館訪問者をもって閉幕しようとしていることである〟と報じています。

当事者は開会中、日を追って見物人がいちじるしく増えて来たことに気付きました。それは先に見た人たちの好評によるものでした。モルモン館を称讃する声が伝えられて行きましたがそれよりも遙かに効果的であったのは新聞雑誌の讃辞でありました。その模範的なものとしてニューヨーク・ニュースは〝博覧会場に泊っている人たちは雄大な美しいモルモン館は見る度に眼がさめるようだと言っている〟と記しております。

同様に世界的に有名なニューヨークの橋梁トンネル建設業者であり博覧会協会会長であるロバート・モーセスから非常な支持が与えられておるのです。公表された献堂式の挨拶の言葉に彼は次のように述べています〝貴方たちは山を越えて私たちに開拓精神と西部の新鮮な空気をもたらしました。私たちはそれに感謝し貴方がたを祝福します。貴方たちの神殿は私たちの正面玄関をひき立てております。それはすべての人の眼に北極星として輝き、訪問者に高貴な第一印象を与えております〟これにニューヨーク毎日新聞が次のように加えております。〝モルモンの光彩豊かな伝統が発祥の地、ニューヨークに戻って来た〟

モルモン館に対し好奇心が起るのに何の不思議がありましょうか？　ソルト・レーク神殿の正面を反映するモルモン館の正面で写真をとるのが流行となりました。ワシントン・ポストはこれを写真ファッション・ショウの花嫁のための背景に使いました。主なテレビ網は有名な歌手マリヤン・アンダーソン及び全合唱団のためにここに落ち付いた環境を見出したのでありました。多くの世界博の日程でモルモン教が如何に優勢なものとなったか見られるのであります。

カリフォルニヤの末日聖徒でさえも、この催しの熱意に感染したのであります。ここに、ニューヨークの一新聞が

サンタ・クルズ・ワード部によって進められた企画について述べております。〝世界博の美観を増すためにカリフォルニヤから毎週三度ベゴニヤが空送されたことは実に信じられない程であります。これは独得の花壇としてモルモン・タバナクル前面の反射池の浮ぶ島に生けられました。ある入賞した花は多彩で生き生きと美しく、さしわたし八吋ありました。博覧会の終了する迄にこの浮島に六万八千弗の金が費されるでしょう。これが主要な弘報機関を刺戟して、特別なベゴニヤ祭の日が祝われ、カリフォルニヤから

ベゴニヤ女王が飛んで来た時百以上の新聞社がニュースとして取り上げたのでした。

新聞を通じて広く全国民に関心を持たれたもう一つの事はモルモンの倹約に対する信頼でした。この新聞報道は、モルモン館は他のほとんどの催物と相違して一九六五年十月の博覧会終了に取り壊されないであろうと指摘しております。ニューヨーク・ヘラルド・トリブューンは〝それは単に博覧会の催物としてだけでなく永久的施設として使用されるであろう。建造物の外装の部分は取はずされて、ロング・アイランドの将来のモルモン教会堂建築に使用されるであろう〟と述べております。

東部の人々に教会の成果を示す努力はこのモルモン館だけに限られませんでした。ソルト・レーク・モルモン・タバナクル聖歌隊がニューヨークの世界博に来た時、テキサス音楽堂に集まった群衆は最大な記録を示し、その後第一期間中を通じてその記録を保持したのであります。聖歌隊は又豊かな見せ物に美しいパレードの各州祭日と競って〝ユタ日〟をたすけて最大な州祭日としたのであります。

けれども東部海岸聖徒たちは音楽批評家をも含めてすべての人をびっくりさせたのでした。彼らの三百の声を合せた歌う母親のコーラスはニューヨーク世界博会場で初公演をしたのでありました。この合唱に群衆は起立して拍手を送り、歓乎の声をあげ新聞社は〝輝かしき栄冠の鳴り響く

証拠〟であると称讃しました。それは全般的に世界博で最も感謝された音楽行事と認められ二百からの主な音楽団体の中で遙かに首位を占めていたのであります。

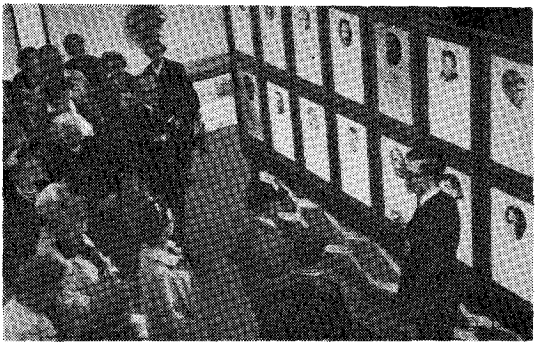
教会は世界博のお蔭で多くの栄冠を受けました。恐らく最も深い感動を与え永く消えないものはこの催物が訪問者に与えた霊的な効果でありましょう。〟人の幸福探求〟の主題は享楽的な巷の群衆から多くのまじめに考える人々を拾いとったようであります。モルモン館を訪ねた多くのお客さんが後で異口同音に、建物の中に入るソルヴァルツセンの十二呎の壮厳な復活したキリストの像を見、タバナクル聖歌隊のやわらかな旋律を聞くと、すっかり敬虔な気持になりましたと称讃しておりました。彼らは聞き且つ学ぼうとしてそこに足を留めたのでした。近々東部で改宗した多くの者が、このモルモン館で一団の人々を案内し静かに次から次へと催物の説明をしながら教義を教えて行く宣教師の強い証を聞いて感動したと告げております。

多くの戸別訪問の経験者である宣教師たちがこの案内の終りに訪問者から〟実は私はモルモン教会についてあまりよく知らないのです、どうしたら、もう少しくわしく知ることが出来ますか？〟と言われてびっくりしているのです この時にすべての人は照会カードに記入するようにすすめられ、もし彼が望むなら何処に住んでいようと必ず他の宣教師が訪ねて末日聖徒イエス・キリスト教会について、もっとくわしく説明するでしょうと告げられたのであります。閉会後に最後に取られた割札はモルモン館の宣教師によって二十四万五千の照会者が記録され、これらは世界中諸国民の中に送られ伝道活動に待たねばならないのであります。この照会者たちの約半数は東部諸州伝道部内であまりすが、そこの伝道部長ウイルボーン・C・ウェストは報じております。〟モルモン館の素晴らしい霊的効果は無限に続きます。それにこの地域の世論を変え、我々の生涯に起った他の如何なることにもまして教会の地位を高めました〟と。彼は彼の伝道部内に生じた、〟雨後の筍〟のような接触に大わらわであると指摘しています。モルモン館からの照会カードで最初の訪問がなされますが、それが進展する結果、当然に次の家庭集会が約束されます。〟私たちはとても手がまわりきれない〟とウェスト部長は喜びの悲鳴をあげております。

照会カードを続けて送っているのに加えて閉会後毎週彼らの訪問を受けているのです。博覧会からトラクトをもらって帰ったけれども読まず、それに付いていた照会カードを数カ月後迄送らなかった一婦人は〟どうぞこの素晴らしいジョセフ・スミスの聖徒について充分な話をして下さるために誰か送って下さい〟と書いてよこしました。

この催しの与えた感動、影響は到底はかることが出来ません。この博覧会で改宗したある夫婦はわずか二カ月間に十

二人以上の友人を教会に入れました。フロリダ伝道部では最近、博覧会に行ったあまり親しくなかった隣人から始めて教会のことを聞きパンフレットをもらった一家族にバプテスマを施しました。西部ヨーロッパ伝道部長のマーク・E・ピータソン部長は英国伝道部の二人の宣教師がトラクティングしている間に或家に入ると、そこの父親は「どうぞお入り下さい。貴方たちの素晴らしいモルモン館についてお話ししましょう。私たちは今アメリカから帰ったところです」と告げました一週間後に彼らは教会に入りました。誰も博覧会における教会の影強力と効果を過少評価しようとする者はありません。モルモン館の管理部長バーナード・P・ブロック・バンクは〝貴方たちはその実によって彼らを知るでしょう。そして私たちは私たちの実を、宣教師を、信念を世界の人々の眼の前にひれきしたのでした。今や私たちの宣教



師たちはかって拒まれた私たちの郷土に早く戻って来るように迫られているのであります〟と述べております。

モルモン館の中の長老たちや姉妹たちの活動は誠にめまぐるしい程です。〝彼らは五時間交代で、勤務外の一日の時間は、早い頃の訪問者の家庭集会で教えております。その事実を「彼は昨年の博覧会開期に四万二千七百四十冊のモルモン経が売られたこと、それに加えて数十万のパンフレットが配られたことをもって証明しております。

お客さんを画室、影像室、ジオラマ館に案内しながら証と教えが宣べ伝えられるのです。

この展示は毎日平均一万六千九百名の訪問者を迎えましたがそれはその日に全世界を通じて専任宣教師の行なった家庭集会の数に匹敵します。室内の催物には信仰を促進させるいろいろなものがあります。霊感される〝キリストの像〟に加えて新旧約聖書から取材した油絵があり又長い回廊には堂々たる二つの壁画がありその一つには、イエスとその使徒たちの生涯の出来事が画かれてあります。この一連の光景はヨルダン河における救い主のバプテスマに始まって黙示者ヨハネのモロナイの示現〝わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た……〟で終っております。壁画の描写に、福音の回復及び末日に回復された教会の十二の歴史的事件が組合せてあります。

多数の訪問者は三つの大きなジオラマに深い関心を示し

ました、ジョセフ・スミス最初の示現の森がつくられ十四才の少年が知恵を求めて祈っております。ここで案内の宣教師は「私はジョセフ・スミスが永遠の父なる神と御子イエス・キリストを見たのを知っております」と証して多くの人の胸を深く打つのであります。二番目のジオラマは聖書とモルモン経を結び合せております。これは救い主がエルサレムで言われた言葉〝わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある……〟の説明によってなされておりますすぐこの光景に接続して西半球ゼラヘムラに現れた復活したキリストの像が立っております。〝彼は言っております。〝われが言いたるそのほかの羊とはすなわち汝らのことなり……〟

三番目のジオラマは油絵と彫刻でその題は〝人生の目的…人の永遠の幸福の探求〟です。この一連は人生の目的を出生から墓場迄、一歩一歩と示す場面の合成であります。ここで宣教師は神の御業及びその栄光は人に不死不滅永遠の生命をもたらすことであることを証します。ここで多くの質問がなされ、照会カードを記入し教会のパンフレットを提供する機会が生ずるのであります。

恐らくここで最も印象的なプログラムは、リチャード・L・エヴァンズによって書かれブリガム・ヤング大学で製作された〝人の幸福探求〟の映画でありましょう。このフィールムはニューヨークの世界博覧会で最も評判となったフィルムであります。この作品を通じて如何によくあざやかに福音の原則が描き出されたかについて、有名なプロテスタントの代表者、ノルマン・ヴィンセント・ピールは感動して彼の連合新聞の欄に書いております。〝私は如何に冷淡な人でもモルモンの展示会に来て心を動かされない者はないと思います。彼らは一流の役者をもって出生から永遠の世界迄の人間の霊魂の旅路を描いた素晴らしい映画を見せています。それは見る者をして涙を流させ空中を歩かせる程、栄光に充たされたものであります〟

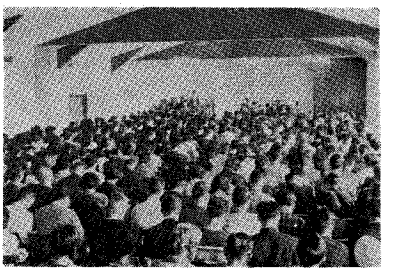
このフィルムは実際に八千六百回、上映され九十四万六千人の人が見ました。

多くの人たちが個人的にモルモン館に大きな貢献をしました。それらの内で主な人は世界博覧会委員会のハロルド・B・リー会長で彼は十二使徒会のマーク・E・ピーターセン、デルバート・L・ステップレイ及びリチャーズ・L・エヴァンズと密接に協力しました。けれども最大なる貢献者はデビド・O・マッケイ大管長であります。

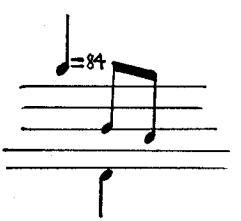
世界最大の市場で傑出した展示をもって主の名により如何に驚歎すべき成果があげられるであろうか、それを見るのが彼の夢でした。

代々に画期的な事項の数ある中に、これは誠に神に霊感されたものであります。

彼は教会をその郷土に持ち帰りました。



新世紀の宣教師の集会



日本に於ける伝道は一九〇一年に始められ二十三年迄、徐々に成長して行きましたが困難になって二十三年に閉鎖されました。

一九四三年に伝道は再開され以前の十五倍の速度をもって成長して行きました。基礎が置かれてあったことがこのような急速な成長をもたらしたのです。本伝道部は今日では一九四八年度の数倍の速度を以て成長しつづけているのであります。これはただ数においてばかりでなく、指導力、トレイニングその他多くの分野においてであります。私たちよりも前に他の伝道部に行った人たちは、今私たちを見て、私たちが今爆発寸前、新世紀のれい明にあり、時のきざしはここにあると予言しております。

パリサイ人はサドカイ人と共に来て天からのしるしを見せてもらいたいと思ってイエスを試みました。

イエスは答こて彼らに言いました。「あなたがたは夕方になると『空がまっかだから晴だ』と言い、また明け方には『空が曇ってまっかだからきようは荒れだ』と言う。あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるを見分けることができないのか。?」

私たちは如何にしばしば徴を求めてあたりを見廻したことでしょうか。奇蹟は私たちに改宗の道を開き、あるいは日常生活において成功をもたらす力を与えて、そのようなしるしが私たちのあたりを取り巻いているのではないでしょうか。今この日本の地に奇蹟がもたらされているのであります。そうです。貴方が私たちが奇蹟をもたらすのをたすけているのです。誠に奇蹟は日本の地に着々と広まって行く福音の力であります。

私たちの周辺の徴を見てみましょう。

一、神殿訪問計画

今夏一四一人の成人と二三人の子供たちがお互いにこの世においても又永遠に結び固められるのであります。伝道部を通じてほとんどの指導者たちが、十日間共にワード部及びステーキ部を観察するのであります。友情のきずなが強められ、意見を交換し熱意を分ち合うのであります。このようなおお勢の人がこのような長距離を旅行するのは教会史上始めてであります。

二、アロン神権プログラム

業績賞状がすでに訳されてアロン神権者の激励と訓練の為に用いられております。又アロン神権ゼミナールのレッスンが作られ又活発なアロン神権者に指導者訓練がほどこされております。

三、ホーム・ティーチング計画

ホーム・ティーチング計画の為の一九六五年度の完全なレッスンがすでに印刷され、又必要な組織の資料も準備されました。この伝道部はホーム・ティーチングの益を自覚する最初の伝道部となるでしょう。

四、日本語標準聖典の完成

東洋において自国語をもって完全な標準聖典を持っているのは本伝道部だけであります。

五、多くの福音の書物及びテキスト・ブックが翻訳されました。例えば基督イエス、奇しきみわざ、その他であります。伝道部翻訳委員会も組織され日夜福音の書物その他資料が訳されております。

六、教会堂

三つの新しい教会堂が完成し、七つが現在建築中であります。合計十のきわめて新しい会堂が建てられます。

七、全部日本人の地方部役員

同様に二十九支部の内二十三が日本人の支部長であり、すべての支部長会に少くとも一人の日本人役員がおります。

八、地方部宣教師計画

二十八人の宣教師が全時間を使って、支部及び地方部の役員の多忙な仕事を手伝って共に働らいております。

九、伝道本部改築、拡大

私たちは本部事務室がより近代的に完成すればよりよい奉仕と伝達がなされると自覚します。如何にじん速な郵便事務と効果的なコミュニケーションがなされるでしょうか。

十、私たちの伝道の地、日本

日本は全世界で五番目の高度産業国でありアジアでもっとも勢力ある先進国であります。

十一、五百八十三万三千八百八十五人の日本人が宗教的な真理を探し求めております

（有名な日本の社会学者の見積りによると）これらの人たちは宗教的な傾向をおびております。九千七百二十三万一千四百二十一人の多くの日本人が何を求めているかすら知らないのです。

十二、伝道部長の素晴らしい指導

〝私たちの霊的なバケツ〟〝ただ神の栄光を見つめて〟〝福音の販売者と福音の教師〟すべての人は二つの書を書く。何になろうかという計画と、何になったか〟〝積極的態度と消極的態度〟〝従順〟〝よい道具〟これらすべては宣教師たちが伝道部長の意味深い言葉を思いおこす時に特別の意味を持っております。

十三、効果的な日本人のレッスン・プラン

求道者を教える効果的な正式の六回の家庭集会のレッスンに加えて六回のバプテスマ後の補足があります。

十四、多くのパンフレットが熱心な求道者を教えるたすけとなっております。そのうちには〝ジョセフ・スミスの見神録〟〝知恵の言葉〟〝家庭と家族〟〝聖典を調べなさい〟

貴方はそれらを全部読みましたか

十五、語学習得の援助と技術

日本に来て福音を教える宣教師にとって、一番大きな問題は日本語を習得することであります。今日、より近代的なテープと習得方法が用いられております。そして宣教師は伝道史上かって見ない速さをもって語学に熟達しております。

十六、新しい福音教授の視覚教材

〝モルモンとは〟〝モルモン教略史〟〝世界博モルモン館〟などの一連のフィルム及び〝人間の幸福探求〟映画などが現実生活を、キリストの福音に結び付けております。

十七、〝改宗への一里塚〟書のはん布

何故、どのように伝道するかについての資料を集めて編集された改宗の思想と方法の書物が福音を教える能力を強める為に学ばれております。

十八、聖徒の道は日本で最上の雑誌です。

十九、財政的に自給自足の伝道部であります。

二十、去年の今頃全々教会について知らなかった八十二の求道家族が目下福音の永遠の原則を勉強しております。

二十一、三百六十人の日本人のメルケゼデク神権者がおり、四つの日本人の長老定員会があります。

二十二、七千五百七十一名の教会の会員。これらのすべての人が教会の会員でない家族及び友人を持っております。何と大きな改宗の可能性でありましょうか。

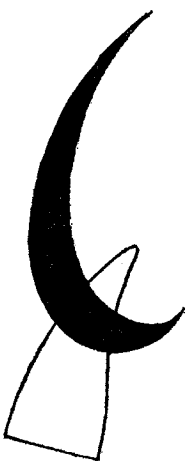
二十三、協力会員が家庭集会その他改宗活動に福音のメッセージをもたらすように手伝っております。

二十四、百四十五人のフル・タイム及び二十六人のパート・タイム宣教師が義人を探してその人たちがキリストの福音を理解するように手伝おうとしております。

二十五、生きた神の予言者が私たちを導き指示を与えてくれます。

主が来られる前に私たちは、まだ何をせねばならないでしょうか？　ただ私たちの〝道具を取って働らくこと〟です。さあ行きましょう成長の時は今です。成功の車は私たちです。私たちの燃料は私たちがたずさえて行く、美しいメッセージに対する信仰と確信であります。

〝主の道を備えよ、
その道筋をまっすぐにせよ
彼の来る時は近づいたから〟

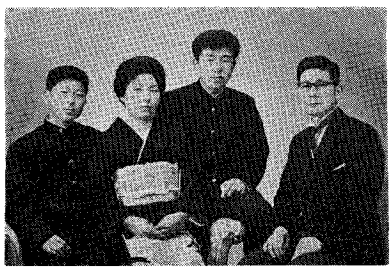


私たちの家族の証詞

――鈴木吾郎兄弟御一家――

（山形支部）

私達四人の家族は、モルモンの家族でなければ受けることのできない数々の恵みを戴いております。丁度今年三月二人の子供が、大学と高校の受験でしたが、そのおり奇蹟的な恵みがありましたので証詞させていただきます。受験の経験のある家族の方はお察しのつくことと存じますが、私達夫婦も気の安まる思いが無いような状態でした。毎夜遅くまで勉強している子供達も大変でしたが、感心に教会には出席しておりました。最初に長男の大学の受験がありました。途中から長男の希望で受験科目をかいたので、果して合格できるかどうか心配でした。他にも二、三の大学を選びましたが、受験を断念して将来に目的があって選んだ大学でしたので是非入学させてやりたいと思っておりました。私は、出発に当って長男のためお祈りをいたしました。その時辺りが明るく開らけて行くような霊感を受けました。受験日は、私達夫婦が断食してお祈りを続けておりました。主の助けのあることを確信しておりましたので、合格の通知を受けた時は、本当にうれしく家族が一緒になって主に感謝のお祈りをいたしました。それから数日で弟の受験がせまりました。県下一競争の激しい高校でしたので勉強も特に力を入れておりましたところが、受験を後二三日して風を引いたのか、熱が出て、頭痛もあるので早速医者にみていただいたが一向よくなる傾向がなく私達家中の者が本当に心配しました。相談の結果宣教師にお願いして灌油の儀式をして戴くことにしました。私達は一つの部屋に集り「なにごとも汝らが為さんと信じ、信仰堅固にわが名によりて御父に乞い求むることは、それが正しい限り汝らに為さるべし」。御言葉を心にしながら長老の来訪を待っていました。間もなく二人の宣教師が玄関の戸を開けました、その時稲妻のように言い表すことのできない霊感を受けました「これこそモルモンの家族だけが戴く賜だ」と思う心で胸が一杯になり感謝の涙がでてきました。聖霊の満ちた儀式が行なわれた翌日昨日までの熱もすっかり降り全く医され、元気で受験に出て行きました。不思議な程でした。受験日の二日間私達夫婦は、断食してお祈りを続けておりましたら、そのかいあって、受験が終ってから二男の子供が次のような話をしておりました「難しい問題の時お祈りをしていると不思議にしらしらと解けて答案を書くことができた不思議でした神様の助けがあったのです」と。



昭和39年結婚20年を記念して

受験期には色々の出来ごともあるが、私達家族にとっては一生忘れることのできない感激でありました。モルモンでよかったと家族が一つの心になって証詞を持つことができたことを神様に感謝しております。

この証詞を書くに当って、それぞれ書く予定でしたが、期せずして同じ証詞になったので一つにまとめた次第です　アーメン。

人生の目的——人の幸福探求

私たちが霊界（前世）でなしたことは、丁度私たちが現世でなしたことが来世で報いられるように私たちのこの世の生活に作用するのであります。この神性は真理はこの世の人生に目的を与えております。

〝**出生**〟　誕生の奇蹟はすべての神の霊の子たちに機会を開く、生涯の決定的段階であります。

〝**信仰**〟　両親の主な責任はその子供たちが信仰を持ち主の前に正しく歩むように教えることであります。この教えは母親の膝下から始めるべきであります。

〝**教育**〟　〝神の栄光は英知なり〟　〝およそ、われらのこの世において達する英知の一切は何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし〟

〝**愛と結婚**〟　人の霊と体は永遠でありますので家族の輪も福音の律法と原則に従うことによって永えに続きます。その原則の一つは現世及び来世に続く永遠の結婚であります。

〝働きと奉仕〟　〝豊かに生めよ、殖えよ、地に充ちよ、地を従わせよ〟これは地上の子供に対する神の最初の誡命であります。

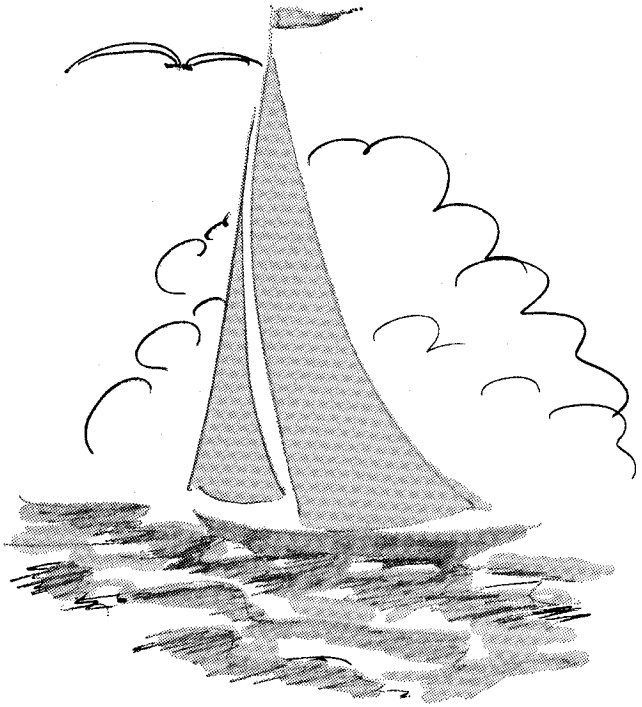
〝逆境〟　人生は喜びの連続を意味しておりません。主は言われました〝主は愛する者を懲らしめる〟

〝家族の結合〟　子供がもたらされるときにその一家族は神の律法に従い正しく生活することによって家族の結合は墓を越えて続くという神聖な確信に伴う幸福さを楽しみます。

〝成就〟　私たちの子供たち及び孫たちが、この地上において身も知恵も共に成長して行くのを見ることは大きな幸福をもたらします

〝死〟　死は生と同様に永遠の生命の一部であります。信仰を持つ者に死がもたらされた時、彼は再び生きるでしょう。そこには悲しみよりも満足があります。

〝死後の生命〟　生命は永遠であります。人の霊は決して死にません。そして霊と体の普遍的な再結合はすべての人にもたらされます〝アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである〟



足並そろえて

――指導精神の啓発――

古今東西を通じて人類の最大なる発明は二千五百年以前にプラトーにおいて名もなき一ギリシャ人が人々をして足並そろえて行進させる行程を完成したことにあります。異なった動機と、異なった性格を持った大きな群衆でも努力する時、一機能に組織され調整されることが発見された日に文明が始まったのであります。全人類の歴史を通じてこの足並をそろえる団結の精神は確かに何事の完成にも最も大切な要素であります。人々が団結して共に働らくことが出来ない時は或方向に進む者は反対の方向に進む者の努力を妨げその効果を空しいものとして、その結果混乱と失敗に落としいれてしまうのであります。スポーツ界、事業界あるいは教会の仕事、如何なる分野にあっても望ましい成功をおさめるには共同の目的に向って一致協力することで、通常これが優秀さの最も厳格なテストとされるのであります。

神が天国の大管長会は一つであると言われた程、この一致協力の素質は大切なのであります。彼らは目的が一つであり、理解することが同一であり手段が一つであります。今や主はその子供たちの昇栄をもたらすために、この地上に彼の組織を設定しました。主は多くの働らき手をもってこの組織の陣容を整え、各人にその遂行すべき明確な割り当てを致しました。そして主の最も大切な要求は私たちは主と天父が一つであるように一つであるべきだということであります。これは偉大なる思想であります。私たちの成功は主が命ぜられたように一致協力して働らけるかどうかその能力に依存しております。

この団結を達成することがほとんど、その成功の確実なことを保証しております。一致協力して働らくということはある人々にとっ

ては、むずかしいことでありますから、私たちはこの要請をあまり軽く取るべきではありません。ある場合に私たちはぎょ者のいない馬のチームになぞらえられ又ある時はボークするチームに又ある時は各人がそれぞれ勝手な方向に向う分裂したチームになぞらえられます。このような混乱は当事者が教会の教義を信じなかったり又は無能であったからもたらされたというわけではなく、たいていの場合は彼らの働らきを如何に一つに調整するか、学んだことがない結果によるのであります。

そこにいくつかの理由があります。意見が相違した時にそこに問題が生ずるのは当然であります。適切な手続きが、これらの相違は充分に討議されねばならないということを示しております。もしもすべての可能な情報が集められて、注意深く考慮されたら、そこに全員一致の決定がなされるでありましょう。けれども投票が全員一致にならない場合があります。その時私たちは成功を左右するテストを受けるわけであります。

一九一七年米国がドイツに宣戦布告した直後、エリュー・ルートがシカゴにおいて講演しましたが、これは私たちの教会の働らきに大きな助けとなるかも知れません。彼は次のように言いました。

〝アメリカ合衆国のドイツに対する宣戦布告はこの国の国民の戦争と平和の問題に対する関係を完全に変えてしまいました。宣戦前には、すべての人が私的に又は公的にアメリカ合衆国はドイツと戦うべきかについて討論する権利を持っておりましたが今や戦いは宣告されたので、すべてのアメリカ合衆国の市民は討論を中止して働らく義務があるのであります。私たちの眼前には、もはや疑問はないのであります。それはすでに広範に討論され、注意深く決定されたのであります。今やすべての市民はその前歴の如何を問わず、直ちに全力を尽してすでに開戦せる米国政府をして成功させる責任があるのであります。宣戦布告してから、宣戦布告すべきであったかなかったかなどと討論する国民は無能、無力で麻ひしており人々に笑われ敗北して外国の支配を受けるようになるのであります。自らの律法によって自ら決定した決議を受け入れることが出来ずすでに決定された問題をつきることなく討論するような民主主義は自治の根本的な要請に失敗しているのであります。これからは国家がすでに戦っている戦争に反対する議論は敵であります。彼らの精神は政府とアメリカ合衆国憲法に反逆する精神であります。対立を止めなかった大部の者がその心にアメリカ合衆国を裏切る者であると結論されても、もんくは言えないのであります。貴方はある方向にたんを起して対抗し私は他の方向に起して対抗し問題が決定しない間はそれぞれ自分の立場をかち取ろうとすることは出来ます。けれども今や大統領と正常に選挙された国会が、貴方の又私の意見を聞いた上で問題を決定したのであります。そしてそれは討論の終りであります。そしてこの国のすべての忠実な市民は今この瞬間から国家の成功をもたらすように最善をつくさねばならないのであります〟

教会のあるグループ又は評議員会の一員が、議事が決定された後に自分の意見が通らなかったからとて反対し続け又は支持しなかったらどうなるでしょうか。これが教会が始まった時から教会の内外を問わず多くの人が没落したわけであります。

イエスは協力の欠けるもう一つの理由を指摘しております。それは人々が生れながらに異った関心を持っている結果であります。イエスはこの不一致をその当時の一団の人々をもって説明しておりま

す。各人がある言い訳を持っております。ある人は為さねばならない自分の事業があり又ある人は結婚せねばならない。各人がその心に何か異ったものを持っており全般的な関心に統一されることが出来ないのであります。従って主が善しとされることがもたらされないのであります。

ここに団結を欠くもう一つの理由があります。教会の働らきをも含めてどのような活動においても私たちが正しい時に正しい速度をもって進むように私たちに指示を与える指導者が任命されます。団結力を強化し、その結果を見守るのは彼らの責任であります。けれども私たちはよく彼らの指示に応じなかったりします。最近の政府の調査によるとある会社の従業員はそのボスが常に見守っていないとその八十四パーセントがよく働らかないことが判明しました。それは多くの者が強制によってのみ働けるということです。これは注意を要する又非常に危険な私たちに内在する特性であります。多くの学生がお金を払って学校に行ってしかも出来るだけさぼろうとすることは何と驚くべきことでしょうか。それで生徒監や出席簿や試験が必要になるのです。ある場合に私たちは私たち自身の永遠の救いのために働らくことにおいても同様の処置をせねばならないのであります。団結心の欠如のもう一つの理由は私たちが従順さを学んだことがないことであります。多くの理由で私たちは不従順であります。ある場合に私たちは充分にその状態を知らない結果そうなるのです。例えばスリヤ王の軍勢の長ナアマンは予言者エリシャにヨルダンへ行って七たび身を洗えば清くなるであろうと告げられました（列王紀下五：一〇）けれどもナアマンは言いました。〝私の国の川はイスラエルのすべての川水にまさるではないか？〟ある場合に私たちは、ナアマンのように議論したり又は私たち自身を合理化して祝福の機会を失するのであります。例えば主は私たちに罪を清めるために浸礼を受けるようにと私たちに告げられたのに、ある者は直ぐただ水をふりかけるだけでいいと主張します。又何故浸礼する必要があるだろうか？と言います。けれども主は〝信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし不信仰の者は罪に定められる〟と言われました。これは権威あり決定的なものであり私たちはそれに従うべきであります。

すべての事に私たちは主の言葉を額面通りに受け取って言われた通りに又為すべき時に為したら如何に素晴らしいことでしょうか。私たちはこの原則を私たちの集会の計画に私たちの事業に又福音の原則を守ることに適用出来るのであります。

最近世界的に有名な一人の牧師が自叙伝を書きましたがその中で彼は数年前に彼が書いた一冊の書が福音の一原則に反していることをわびました。さらに大きな経験と思想の熟成が彼の心を変えたのでありました。けれども数千、万のその誤った彼の哲学を記した書物の流布を取り除くことは出来なかったのであります。その書物は今もなお人々を誤り導いてその生活に混乱と不従順をもたらしているのであります。今彼は自分が誤っていと気付きました。けれども損害はすでに起ってそれは決して矯正されないのです。それだけではありません。この人が主の言葉の代わりに自分自身の言葉に信頼を置く限り彼は将来も続けて脱線するでありましょう。私たちはこのような誤りを決しておかすべきではありません。ただ主に頼って彼の計画に従って彼と共に歩む方がどれだけよいかわかりません。

ある場合に主は私たちがあまりに自分の無知と偏見に信頼して不

一致と混乱に落ち入っている状態にあきれられるでしょう。従うことは犠牲以上であり、又非常な犠牲でもあるのであります。

私たちはお金を払ってチームの各人がチームのために一致協力することを学んだ偉大なる運動チームを見に行きます。そこでは各競技者は自己の欲望を抑えて彼のチームの福祉を求めるのであります。各人がそのチームとチームの目標が個人よりも大切であると感じているのであります。私たちは各競技者が如何に個人的に自分が秀れているかを示そうとしている時にその競技を楽しむことは出来ません。私たちは目標に従おうとしないような競技者に興味を持ちません。私たちが見たいのはチームワークがよくとれている競技であります。それが主が私たちに見たいと望んでおられることであります。フット・ボール・チームの各人が自分自身の規則書と目標及び得点法を持ち、それぞれ自分の目的と独立した手続きを持っていたら決して勝つことは出来ません。

これら又その他多くの理由によって私たちは主と足並をそろえて、すべてを教会の計画にそって一致協力する方がはるかに賢明なのであります。この〝足並そろえて〟の発明は偉大であり私たちは特に主が目標を定められた場合にそうすべきであります。

教会においては、フットボール又は軍隊におけると同様に、各人が自己の任務を知り自己の責任をもってそれを遂行することが必要であります。司令官が各個々人に適切な指示をいちいち与えるよゆうはないかも知れません。けれども軍隊がもし各人が個々に命令を受ける迄動けないとしたら、各人がばらばらに自分の意見を持っていると同様に成功するものではありません。効果的な教会の組織は効果的な軍隊と同様に根本的な成功の要求としてまず協力と従順を学び、その足ばかりでなく心も意志も目的も精神も才能もすべての足並をそろえて行進しなければなりません。あるワード部及びステーキ部においてはこの偉大なレッスンが充分に学ばれておりません。救いの働らきにおいては神が司令官であり、私たち自身の昇栄は私たちの効果的な実行によるのであります。もしも私たちが常に神に頼り、全心全霊をもってその計画を受け入れるならどんなによいでしょうか。ある人には神殿外の結婚も神殿の結婚と同様によく思われるかも知れません。又私たちは安息日や什分の一を守ることはあまり大切でないと思うかも知れません。あるいは自分の任務を少しぐらい怠ることはたいしたことではないと思ったりあるいは又報告書を作成しなくてもそれ程重要なことでないと考えるかも知れません。そして私たちが過ってしまってから気がついてどんなに後悔しても取り返しがつかなくなるのであります。それに加えて私たちが協調していない時は他人を不一致と混乱に落し入れているのであります。何となれば私たちが歩調を破っている時は、他人が歩調を合せて行進することはとてもむずかしいことですから、このことは教会のすべての活動に適用されるのであります。数十年前に教会は福祉計画を採用しました。そして全ワード部及びステーキ部にその手続きを取るように計画されました。けれどもある指導者たちは自分たち自身の目標と規則を主張しました。ある人は誰か他の人が指示に従がっいないからと言って自分も従おうとしません。そしてすでに二十年も経過しているのに計画通りに進歩しておりません。彼らは足並をはずしたことによって自分自身を大きく害っているのであります。この人たちは個人的に立派な人であるかも知れません。ただ成功の根本的レッスンを学ばなかっただけであります。各人が

それぞれ自分の規則をつくると、すぐどんな軍隊又はフットボール・チーム又は事業の効果をも完全にこわしてしまうのであります。もし私たちが主のみわざを遅らせる時は自分自身からも祝福を奪い取り、私たちの指導力を破壊しているのであります。

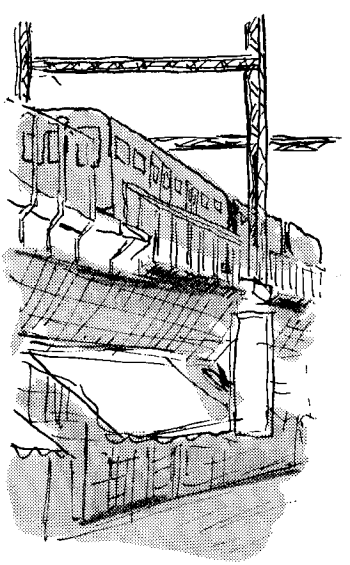
ここに私たちが足並そろえて進まねばならないもう一つの場所があります。イエスは失われた羊のたとえをもって一人一人を救う仕事の計画を始められました。教会は何度もこの計画をワード部及びステーキ部内で実施しようとしました。例えばもしも家庭訪問を適当な指導者と会員たちが一致協力して実施するなら、直ちに全教会を通じて大きな覚せいがもたらされるでありましょう。ある人たちは素晴らしく、これに応じるでしょう。他の者はあまり努力せずほとんど何もしない人もおります。

それはイエスによって告げられたように昔からの話です。ある人はある理由で指示に従うことが出来ず他の者は又異なった理由で従いません。ある者はもっと大切なことがあると思い他の者は干渉されたくないと思っています。ある者は理解せずある者は覚えずある者は無関心であります。ある者は自分の好きなように自分自身の規則に従って競技をしようと主張します。従ってその成果は支離滅裂になってしまうのです。このような状態を見る時に私たちは、イエスが何故〝もしあなたたちが一つでなかったら私のものでない〟と言われたが容易に想像出来るのであります。私たちは彼が心していた人がどのような人であったか想像出来るのであります。

私たちは神と共に足並そろえて行進するように招かれております。私たちの一致協力は最高の効果を保証するでありましょう。私たちの心を神と共にして共に励み協力して神の目的をもたらすということは、何と胸をわかせる考えでありましょうか。

如何なるワード部においてもしすべての人が、主のみこころを行なうことに完全に一致協力したらどのような結果がもたらされるでしょうか。私たちは私たちの能力とその成果を何倍となく倍加するでありましょう。又私たちは主のみたまを持つことが出来るでしょう。私たちは皆正しい時に正しい方向に進むのであります。〝団結に力あり〟もしも各団体が一人の人のように活動するならば、出来ないことは何もありません。考えたことは実行に移され、計画されたことは遂行され、動機と完成の間に幾年月もかかるようなぐずぐずさはなくなります。主が語れば私たちは聞くのです。教会の大管長が指示を与えればそれを実行にうつすのです。

〝足並そろえる〟ことは成功の秘訣であります。そしてそれは又神の最も大切な誡命の一つでもあります。



ソルトレーク大会へ出席の報告

佐藤竜猪

この度ハワイの聖地ライエにきて、北部極東伝道部の会員だけでなく、ハワイにおける当教会の会員にとっても歴史的の意義をもつ聖業に従事させていただいた上に、この四月にシオンの地、ソルトレーク市に開かれた教会の総大会に出席させていただいたことは、「みたま」の導きと会員の皆様の祈りと霊界に在る兄弟姉妹（三月末までに三十九回神殿の儀式を行なわさせていただきました）のお助けによるものと、ひとしお「あかし」を強め、けんそんな心持ちで感謝しております。四月二日の未明にホノルル空港を飛び立ってから四月二十六日の正午前にライエへ帰着するまでのだいたいをお知らせすると次の通りであります。

「二日　午前〇時三十分ホノルル空港から飛び立つ。
同日朝サンフランシスコ空港着、乗合バスでサンフランシスコ市のホテル（ヒルトン）へ。朝九時より、この度の旅行の先導者池上吉太郎兄弟夫妻のあとについて市内の観光。ゴールデンゲート公園の中にある日本庭園で満開のさくらを見る。同日サンフランシスコ泊り。

三日　サンフランシスコ空港発、ソルトレーク市へ。午前ソルトレーク市空港着多数の兄弟姉妹の出迎えを受けて感激。同日はオグデン市のロバート向井氏の家に泊らせていただく。向井氏の夫人は以前の水子まゆみ姉妹です。

四日　午前中の大会の模様はＴＶで視聴。午後からの大会に出席するため昼前にオグデンを出る。まわりの山々にはまだ雪がのこっていた。
午後から大会に出席。二十年前に亡妻にバプテスマを施こしたパカー中尉、今は十二使徒補助であるボイド・Ｋ・パカー長老の特別な配慮によって四枚の入場券が与えられる。同じく二十年前に私にバプテスマを施こしたリチャーヅ中尉、今はソルトレーク市の小児科医、ユタ大学ステーキ部評議員リチャーヅ長老に手を引かれてタバナクルに入る。二十年来夢見てきた神殿、タバナクル、総大会、今眼のあたりに見て、ただ感激の一語につきる。
夜は帰還宣教師の懇親会に出席（二箇所）。数えきれないほど多数の兄弟姉妹の祝福と握手とを受ける。今夜からソルトレーク市の山手にあるリチャーヅ家の客となる

五日　朝から大会に出席。夜の集りが終って大管長が退出される時、出口において大管長にお目にかかった上に握手と祝福のことばを与えられる。これは北部極東伝道部の会

員全部に与えられた温いこころのこもった握手と祝福である。後にこのことを伝え聞く者ことごとくそのきわめて稀な、しかも貴重な幸運に驚いて祝福のことばをかける。そのあとでニュースの編集員が来て記念写真をとる

六日　朝から大会出席。大会の終りに朗読された大管長メッセージを聞いてこころの底から喜びと感激とを覚える。

七日　「This is the place」とブリガム・ヤング大管長の言われた地点に建てられている記念塔の見学に行く。その後溪谷を深くさかのぼる。まわりの山々にはまだ雪が深く溪谷に吹きこむ風は寒かった。

八日　朝。系図協会本部訪問。クリソールド神殿長と共にバートン本部長、ファッジ企画部長等に面接。現在系図協会アジア部が日本会員の系図について持っておられる諸問題の解決に協力することとなる。協会アジア部に主任ジェンセン長老、ヴァネタ・ハムソン（マドセン）姉妹、南条姉妹等と会う。

ビンガム大銅山を見学。夜、ソルトレーク神殿でエンダウメントを受ける。

九日　系図協会アジア部。

後ソルトレーキ（大塩湖）とビンガム銅山の浮遊選鉱所とを見学。

午後オレムのハンクス兄弟の家に行き。二十年来の親友である兄弟姉妹たちと懇親会を催おす。此夜の兄弟姉妹たちの「あかし」には一同感激、ただ涙あるのみであった。

十日　BYUの見学に行く。途中前伝道部長ヒルトン・ロバートソン長老を訪問。夫妻のなお健在であるのを喜ぶ。またジャヴィス長老を訪問。長老はうれしさのあまり一時間ほどつかまえて（文字通り）はなさなかった。

十一日　昨夜から大雪となる。朝BYU内のステーキ部の評議員会にハンクス兄弟と出席。後、神権会、日曜学校に出て日本人兄弟姉妹と再会を喜ぶ。

十二日　ソルトレーク市に帰り、教会本部でヒンクレー伝道部監督およびクリソールド神殿長と会見。そのあとで大祝福師エルドレッド・スミス長老から祝福を受ける。

十三日　系図協会アジア部。

十四日　系図協会アジア部。教会本部へ行き、ボイト・K・パカー十二使徒、補助およびジョセフ・F・スミス長老（十二使徒）、ハロルド・B・リー長老（十二使徒）と会見お話を聞く。

十五日　系図協会アジア部。午後からジャパニース・コミティ・ミーティングに出席。

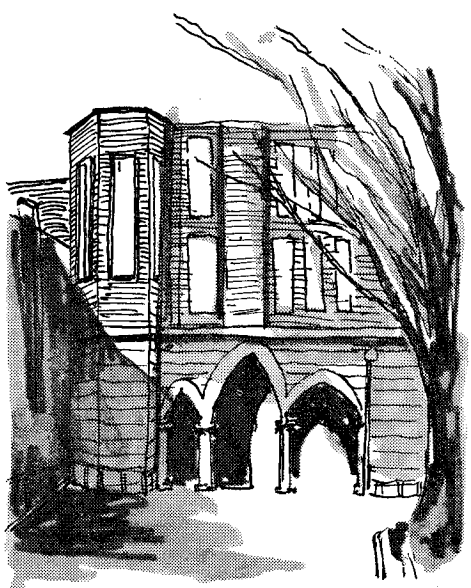
十六日　系図協会アジア部。十七日系図協会アジア部主任ジェンセン長老の案内でヴォルト（系図に関するマイクロフィルム貯蔵用地下倉庫）の見学に行く。

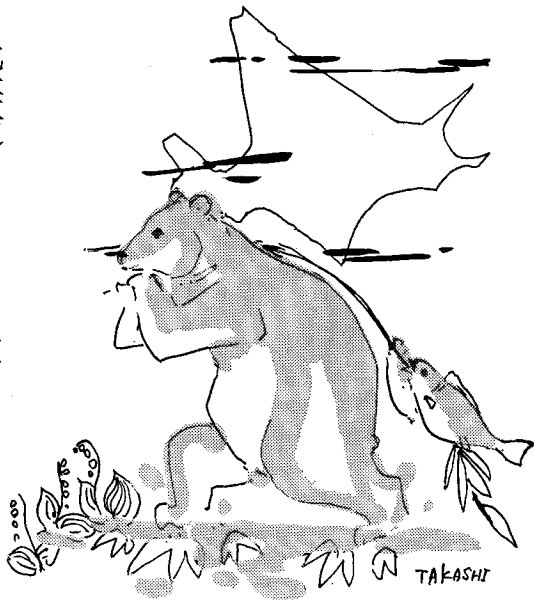
十八日　ソルトレーク市日本人支部の神権会、日曜学校、聖餐式に出席。夜はパカー長老の家で開かれたスタディ・クラスに出席。

十九日　系図協会アジア部。午後よりエンサイン第五ワード部の扶助協会に出席。

二十日　系図協会アジア部。再びジャパニース・コミティ・ミーティングに出席。
二十一日　帰る準備をする。
二十二日　朝ソルトレーク空港出発。多数の兄弟姉妹の見送りを受ける。サンフランシスコ空港着。
夜オークランド神殿でエンダウメントを受ける。前伝道部長マース長老夫妻と会う。サンフランシスコで泊る。
二十三日　朝サンフランシスコ空港出発。昼、ホノルル空港着。同夜ホノルルで泊る。
二十四日　ホノルルで一日休養。
二十五日　ホノルルステーキ部の大会に出席。クリソールド神殿長と会う。夜家庭集会。
二十六日　朝十時ホノルル発。昼ライェ帰着。早速郵便局へ行くと多数の郵便物が来ていて嬉しかった。」

以上がソルトレーク総大会出席旅行のあらましであります。この中で最も重要な事件と言えば申すまでもなくデビド・O・マッケイ大管長に親しくお目にかかってこころから温い握手と祝福のことばをいただいたことであって、これは報告の中で申した通り北部極東伝道部の全会員に与えられたところからなる温い握手と祝福のことばであります。わたくしは皆さまを代表してこの忠実な会見と握手と祝福とをいただいて、この度ソルトレークの大会に出席することができたのは、本当に皆さまの祈りとお助けの結果であったことをつくづくと感ずると共に、代表として責任を果すことができたと感じてよろこんでおります。





北海道とキリスト教

——北海道における宗教的背景——

この稿を書き進める前に、キリスト教即ち真の福音ではないことをお断りしておく。しかしながら、キリスト教即ち北海道の宗教であるという試論は、北海道の文化面を考えた場合、巨視的な見方ではあっても、それはそれとして許されるのではあるまいか。

≪　≪　≪

最近、北海道は観光業者のドル箱になりつつある。おびただしい印刷物が、北海道紹介の名のもとに刊行出版されている。我々道産子としては、その内容に対して、なんとなくこそばい感じがしないでもない。詩情豊かなエキゾチックな北海道——確かにそれも一面ではあるが、北海道で生きることは、そこいらの甘い観光宣伝の文句以上のもので、厳しいものである。

その厳しさを克服して来たという事実、あるいはしつつあるという姿勢に、我々は北海道の真の姿を見ている。そこには、なんらかの強靱な精神が必要でありそのバックボーンが、やはりキリスト教であったことは否み難い真実である。

天文十八年、フランシスコ・ザビエルによって我が国に、キリスト教がもたらされ、ものの本によると、四五十年の間に、全国で七十五万人もの信者に達したという。秀吉や家康は、彼等に領土的野心があるのではないかと恐れて迫害し始めたが、その迫害者の逃れ先は、東北蝦夷地であった。今から四百十年前ヤソ会のルイス・フロイスによって、この当時の北海道が、ローマに報告されている。松前家三代目松前慶広の時代である。その報告書の大要は、「日本の北方殆ど北極の下に蕃人の大きな国があり、彼等は動物の毛皮を着て、全身毛でおおわれ、甚だ酒を好み、勇猛にして天だけを礼拝し……」云々であるが、切支丹が始めて蝦夷地へ入り込んだのは、慶長十八年、松前藩が仙台藩に医師を求めたところ、ヤソ会のコスタンゾが切支丹の医師を派遣したが、これが最初であると言われている。慶長十九年、京都・大阪の信者七十二名が逮捕され十三ケ村に流刑のうき目に会ったが、これらの人々が、松前や松前郡福島町字千軒にあった藩経営の金山の坑夫となって、信仰を持ち続けた。以後の主たる出来事を年代を追って表わしてみると

○元和二年　ジロラモ・デ・アンジエリス渡来、伝道を始める。

○元和三年　ヤソ会のディエゴ・カルワルホ渡来。
○元和四年　アンジェリス再度渡来、松前藩主これを厚くもてなす
○元和六年　ディエゴ、秋田よりミサの道具を携え、八月五日ミサを行なう。
○元和七年　アンジェリス三度目の渡来。松前仮教会を建て、一八三人改宗。
○元和九年　アンジェリス、江戸品川で火あぶりの刑
○元和十年　ディエゴ捕われ、広瀬川で水責めの刑
○寛永十六年　島原の乱後、厳しい取り締り続く。松前においても初めはこれをひ護したが、幕府の命に抗し切れず、砺崎主殿を大将として三百の兵を仮教会に差し向けたが、最後の礼拝後、百六人が従容として首をはねられた。
（現在、松前家墓地、その他から切支丹燈籠が発見される）。
ずっと下って
○安政五年　ペルリ函館に来る。居留地内のキリスト教布教許可
○安政六年　フランス人メリメ、函館に仮天守堂を建てる。ロシア人イワンマホク司祭として着任、一年余りの後、後任としてニコライ来る。（東京お茶の水のニコライ堂今なお在り）
○明治六年　切支丹禁制が廃止、宗教自由になる。函館に新教入る
○明治七年　アメリカメソジスト会のハリスイギリス聖公会のデニング来る。

以上、概観会ると、江戸初期から、北海道とキリスト教とは、なんらかの関係を有していたことがわかる。特に明治時代は、開拓長官の黒田清隆が、開拓百年の計をたてるに当って、多くの外国人を用いたので、この時代のキリスト教伝道の中心は北海道であった。特に有名なのは、札幌農学校（北海道大学の前身）の教官として赴任したクラーク博士である。彼が赴く時、数十冊のバイブルを求めて札幌に至り、黒田長官の反対を押し切って修身の時間のかわりに毎日曜日バイブルの研究会を開いた。札幌農学校から、内村鑑三、新渡部稲造、有島武郎等の偉材が輩出したことにより、北海道の精神文化に、キリスト教が深く沈潜しているということは確かに言えると思う。

先に北海道の厳しさとキリスト教は密接な関係を有していると述べたが、それはどういうものなのだろうか。我々は、しばしば「シバレル」という言葉を使う。その真の意味は氷りつくような寒さ以上の状態であって、北海道に住んでいる人々でなければ解らない感覚である。吹雪の日は何日も続く、食べ物は豊富ではなかった、米はとれない、そんな現実を熟視しながら、北方の試練に堪えつつ、一歩一歩明るい文化を築き上げて来た。かって東京から来たある兄弟が、冬の大吹雪の中をランドセルを背負って通学する小学生を見て、

「こんなに吹雪いても学校は休まないのですか。」

と聞いたことがある。休まない旨を答えると

「小さな時に、すでに不屈の精神を養ってるみたいですね」と言った。

この人の観察は当を得ている。このような北海道はまだ開道百年

を迎えたばかりで、開拓の鍬は、まだまだ充分に入れられてはいないのである。

北海道の人々は、自然との対話を余儀なくさせられる。ちょっと油断すると、執拗に打撃を食らう自然、犯し難い自然、それを乗り越えんとする人間の意志、その限界を試されて精魂つきた時に、恵まれる春の陽光、黒土のたくましさ、すずらんのむせるような香り——このような中で、人々は、絶対者の存在、神の実在を理解して来たであろうし、又しやすいのである。伝統や古い慣習のない北海道が伝道しやすいと述べる宣教師も数多い。

かって朝日新聞（昭和40年3月61日火曜日付朝刊）に「北のうた」と題された一文が掲載されていたが、その中に、北大寮歌「都ぞ弥生」が、『同時代の三大寮歌として並び称される一高の「ああ玉杯に」や三高の「紅燃ゆる」が人間くさい、〝国家の指導者的野心〟を謳歌しているのとは大きな違いだ』と述べていたが、確かにそうである。

都ぞ弥生の雲紫に
花の香漂ふ宴遊の筵
尽きせぬ奢りに濃き紅や
その春暮れては移らふ色の夢こそ一時青き繁みに
燃えなん我が胸想ひを載せて
星影冴かに光れる北を
人の世の
清き国ぞと憧れぬ

一九〇一年九月一日の断食日に当る日曜日、——日本に到着後約二週間余りになる日であるが、横浜の南部でグラント長老が福音を宣べ伝えるため日本の地を献納するとの祈禱を捧げた。そして福音伝道の地は、札幌にまで及んだ。真の福音が、北海道にどのような可能性を有しているのだろうか。歴史をふり返ってみると、なお一層北海道の独自性を感ぜずにはいられない。

星影冴かに光れる北を
人の世の
清き国ぞと憧れぬ

北海道の聖徒たちが、この地において、神よりその責任を霊感されるよう祈りつつ。

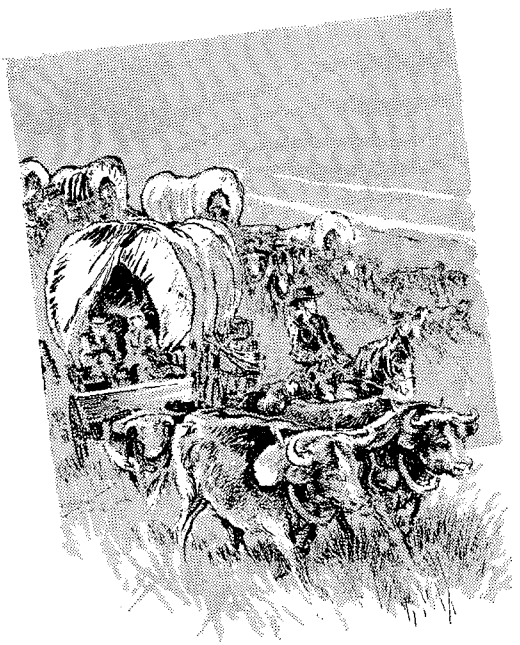
（文責　潟沼誠二兄弟）

西部建設のモルモン教徒

——開拓者記念に際して——

一、恐れず来たれ聖徒　進み行けよ
その旅はつらくとも　恵みあらん
無益な憂いは　払いて努めよ
されば喜ばん　すべてはよし

二、わが定めをなげくや　いな、善きなり
たたかいをいとうなら　報いはなし
勇みて進めや　神は守ります
やがて話されん　すべては善し



一八四七年七月二十四日の太陽が丁度、頭上真上に来た頃、疲れた旅の一団がエミグレーション・キャニオン（移民峡谷）の入口から脱け出て、小高い岡に登りソルト・レーク盆地を眺めました。これが約二万人の末日聖徒を代表する百四十八人からなる開拓団でありました。開拓者たちが今や彼らの新しき郷土となるであろう眼下に横わる盆地を眺めている間、幌牛車の列はしばらく立ち止りました。

それから一行は静かに盆地へと降りて行き前衛として先に遣わされたオルソン・プラットが選んだ地点へ向いました。ヤング大管長は直ちにプラット長老に彼が入植のために正しい場所を選んだと告げました。聖徒たちは旅の終点に到着したのでありました。彼らの用語〝約束の地〟〝シオン〟を建設する場所を遂に発見したのでありました。

ブリガム・ヤング及びその一行が心に描く、西部の山間にモルモン共和国を建てるには、先ず彼らの家を建てる土地の完全な開発でありました。ヤング大管長は彼の確固たる計画はサンフランシスコ湾からソルト・レーク迄、くまなく〝モルモン教徒〟の地として知られることであると宣言しました。直ちに木材の量、給水、牧草地などを確める為に探検隊が派遣されました。このような活動は開拓者たちがその境界をロッキー山脈から太平洋岸に向けて押し拡げて行くにつれて、すべての盆地で繰返されたのでありました。

山間の西部は単に開発されるばかりでなく到着したその翌日の七月二十五日、ブリガム・ヤングは、土地分配の確固たる政策を人々に明らかにしました。彼は言いました〝如何なる者もここに来て土地を売買出来ない、けれどもすべての人は住み耕すために土地を分け与えられる彼は自分の好きなようにそれを耕すことが出来る、けれども勤勉に、その地を世話せねばならない〟この政策は最初にユタに入って移民ばかりでなくその後の入殖者にも又未改宗者に迄適用されたのでありました。

ブリガム・ヤング及びその協力者たちは、人々を、あらゆる点において自給自足させるように決めました。そのためには彼らは多くの産業を育成せねばなりません、モルモン教への改宗者は世界の如何なる地へ住んでいても世の最上のものを持ってユタへ移住するようにすすめられました。

外国におけるモルモンの宣教師たちは又常にモルモン教徒が利用出来る新しい産業又は発明に注意し又、このような産業を起す援けとなる熟練工を見守るように念をおされました。

人々は指導者の忠告に従ってその結果この盆地に世界が提供出来る最上の種と発見がもたらされました。ユタ史の早期において各種産業の事業が営まれ、或ものは成功し又あまり成功しなかったものもあります。これらの産業の内、次のようなものがあります。甜菜による製糖業、製鉄、製絲（絹）羊毛、皮革、綿亜麻、葡萄、穀類の栽培及び畜産であります。これらの産業の或もの甜菜による製糖業の如きはユタはアメリカ史上に著しい役割を果し、西部建設に貢献したのであります。

けれどもモルモン教徒の西部建設への最大なる貢献は広汎な地域に及ぶ殖民であります。

前線の者たちが開発し家を建て神殿を建て産業を興している間にブリガム・ヤングは組織立った完全な移民計画を指示したのであります。実際において聖徒たちがソルト・レーク盆地に着くや否やモルモン教は大移民事業を採用したのであります。

一八四七年の夏に二千名余りの移民が到着したソルト・レークからモルモンの入植地は全西部に拡がって行ったのであります。その後三十年間、ブリガム・ヤングの管理している時代にアイダホの北方サルモン河に位置する、フォート・レミーから南部アリゾナのメサ迄、又東はワイオミンのフォート・ブリャジャー及びサプライから西方へ西部ネヴァダ及び南部カリフォルニヤのサン・バーナディノ迄移民が入殖したのでありました。一八七七年、ブリガム・ヤングが死ぬ時迄にこの広汎な地域にわたって、三百六十以上の恒久植民地が出来たのであります。彼の死後しばらくして多妻制度の教義についてアメリカ合衆国と聖徒たちの間に問題を生じたために多くの多妻者とその家族の者たちは、南はメキシコ北はカナダへ移民しました。このようにしてモルモン教徒の植民地は外国に迄拡がり聖徒たちは再び新しい植民地を開拓したのであります、カナダの中心地はカード・ストンでメキシコに逃避した者たちは、ソノラとチウアファに移植しました。今日、カナダとメキシコに幾多の末日聖徒の街が残って居ります。

モルモン教徒がカリフォルニヤ、ネヴァダ、アイダホ、ワイオミン、及びアリゾナの早期の移民に貢献したことは注目されるべきで彼らの移民の最後の努力はメキシコ及びカナダにおいてなされたのであります。今日西部山間にある数百の町々にはブリガム・ヤングとがっちりした彼の協力者たちが、植付けて行った面影が未だに残って居ります。このようにたくましいモルモンの開拓者たちによるアメリカ西部の大部分の文明開発は西部建設

に重要な貢献をなしたのでありました。

そのような広汎な地域にわたる植民計画は、ブリガム・ヤングがソルト・レーク盆地に到着して直後になされたのでありました。一八四九年三月に開拓者計画として〝デゼレット州〟設置案が具体化して来ました、自然がこの大きな共同社会を地理的に完全に区劃し、ブリガム・ヤングは立派な州庁舎を提供しこの自然の境界内の州領たることを主張したのであります。

〝デゼレット〟はその憲法に挙げられてあるように、その境界は東方はロッキー山脈、南はメキシコ、西はネヴアダのスイエラ及び北方はコロンビヤ川流域となっております。それは少くともサンペドロ及びサンジェゴの二つの良港のある充分な海岸線を含んでおりました。砂漠や山脈や河川が天然の要塞をなして難攻不落の地をなしていたのであります、ここは隔離孤立して最高に守護されたのであります。

イスラエル集合と西部建設の目的を完成するために教会の指導者は宣教師活動を増加し、改宗者のユタへの移民を奨励する計画をしました。西部辺境の地はイスラエル集合に理想的な場所であったので指導者たちは全世界の教会の会員にソルト・レーク市に急ぐように伝えたのでした。一八四九年から一八五〇年にかけて宣教師の大増加をはかり彼らの活動を拡大したのでありました。これ迄は改宗は、アメリカ合衆国、カナダ、及び英国に限られておりましたが、その後四、五年間に伝道はほとんど全世界に拡がり、今日迄も続いて拡がっているのです。百年間に教会は五万一千六百二十二人の宣教師を福音を宣べ伝えるために全世界に送りましたが彼らは皆自費で少くとも二年間は家を離れて伝道地に留ったのであります。この仕事に就てヒュバート・ホー・バンクロフトは次のように書いて居ります。

〝その伝道冒険に於て、彼ら以上に献身し、自己犠牲をし、成功した宗派はない。新天地へのカトリックの修道者たちでもモルモンの長老たちが旧い世界で示した勇気、強さ熱意には到底及ぶべくもなく又受けた迫害侮辱を、ものともせず、生命も富も健康も慰安もすべてを顧みなかったのに比すべくもないのである〟

ユタの建設者たちは家を建て畑を耕し、自分自身のために政府を設立するかたわら芸術や、演劇や音楽を育成して社会生活を向上したのであります。子供たちは音楽教育を受けてほとんどの開拓村が独立したバンドを持っていたのであります。すべての町は劇場と劇団を持っていたのであります。一八六二年に完成したソルト・レー

ク劇場はこの早期の建物で最も有名であります。それは開拓者たちがユタに到着して間もないこの辺境地に於ては実に驚異的な建物でありました。五十年間アメリカ舞台の権威者であったM・B・レヴィットは述べております。

〝それが建った時にはその雄大さにおいて完全さにおいて又その装備においてこれに勝る建物は実在しなかった。その舞台は百五十呎の奥行きがあり全国で最も立派なものであった〟

モルモンの歴史全体を通じて教会の会員は根本的な信条の一つとして教育について高い理想を持っております次のような声明が早期教会の文学の中に見られたのであります。〝知識なくして人は救われず〟及び〝神の栄光は、英智なり〟（教義と聖約九三：三六）次に示すのは多くの同様の声明の模範としてジョセフ・スミスが主から啓示として受けたものであります。〝学修研究してあらゆる善き書に通じ、また諸々の国語と諸々の言葉を国民とに通じよ〟（教義と聖約九〇：一五）又、〝汝ら努めて求め、互いに智恵ある言葉を教うべし。然り、汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。（教義と聖約八八：一一八）

これらの格言を導きとしてユタの開拓者たちは各開拓村に先ず最初の建物として学校を建てたのでありました。実際において彼らは自分自分の家を建てながら同時に各開拓団は協力して、教会として、学校として、又ダンスや演劇に利用される公会堂を建てたのでありました。ユタにおける最初の学校は開拓者がソルト・レークの盆地に着いてわずか二ケ月後に一八四七年の十月に旧い軍隊の天幕の中で行なわれたのでありました。開拓者たちが彼らの住まう最初の家を建てている間にも毎日この学校は授業を続けて行ったのであります。末日聖徒の開拓者たちは教育に対する関心が強くその立法会議で教育に関する法を制定する前にたった一つの法律を通過させただけでした。デゼレット（ユタ）大学はミズーリ河以西で公認の最高学府として最初に設立されたものであると言われております。

結論するに当ってモルモン教徒の西部建設に貢献した著しいものを要約して見ましょう。

数千の迫害され、心を打砕かれた敬虔な信者か他の植民地からほとんど一千哩も離れた見捨てられた不毛の荒地に居をかまえたのでした、全西部の探検の結果、新しい移民に好適のすべての場所が決定され、それから産業

農業のバランスをとって働き手が派遣され新しい開拓村が建てられて行ったのであります。教会の役員たちは聖徒たちに耕作地、宅地、水利等を分配し聖徒たちは乾燥した西部の灌漑政策、農耕実施を分担協力したのであります。開拓指導者たちは、人々の経済的な独立と発展のために必要な施設を備え又彼らの安寧福祉、教育生活向上のために市政府その他の社会機会を設備したのでありました。

全世界を通じての伝道改宗活動により数千、万の移民がこの大盆地に伴われました。ブリガム・ヤング及びその後の指導者の指示の下にこの多数の異国人は完全にアメリカ化したのでありました。

最高の貢献は、カナダからメキシコに及ぶ尨大な地域を開拓植民したことであります。

開拓途上に於て奇しく建て始められた神殿とタバナクルは聖徒たちの救いのために完成されたのでありました。そしてソルト・レークの劇場は、およそ百年間、ユタの創設者たちの高い教養の証拠として立っているのであります。

宗教、芸術、演劇、音楽及び教育が人々の社交的、霊的、文化的向上発展のために奨励され育成されたのでありました、このように立派な文化的生活の奨励の結果はこの百年間にわたってユタは各州のせん望の的となったのであります。

ハワイ神殿訪問者に告ぐ

「戸籍謄本と自分自身のファミリー・グループシート未提出者は大至急伝道本部あて送付されたし。

渡部　正雄

北の国にシオン建設の槌音

御存知の方もおられると思うが、札幌市はソルトレークを模して区画された。その整然とした街並みをカーキ色に緑色をあしらった電車が、ようやく濃くなりつつある並木を縫うように走る。車中で「やあ！」とか、「今日は」とかいう挨拶がしきりにかわされている。これらの人々の顔は、どれもこれも明るく輝いている。

五月十八日（火）のある光景の点描――そう、これらの人々はモルモンであり、今、北海道地方部センターの鍬入式に集おうとしているのである。

札幌支部の会員達が、もっと大きな建物がほしいと感じたのは、決してナイモノネダリでもトナリノボタモチガオイシクミエタからでもない。集会の出席者数が激増するにつれて、現在の建物に二室を増築したが、まだ足りない実

情からそうなったのである。彼等は一丸となって、新しい建物を得るために努力をして来たが、今日、それが奇蹟の現実となって彼等の目前に示されようとしているのである。光り輝く顔も無理からぬ――ことである。

土地は、特別風致地域に指定されている藻岩山の麓に位置し、周囲は学校や住宅に囲まれた閑静なところである。春は鶯がここだにさえずり、夏は、山いっぱいの緑に健康な若者たちの歌声が流れ、秋は紅葉が中腹の仏舎利に映え、冬はスキー客が、裏側の斜面を賑わすところ――ここにあと一年半も経てば、新しい宮が建ち、より美しい讃美の歌が流れるであろう。

日だまりにたむろしていた人々の群れが、小さな半円を作って集った時、落された山の影にすっぽりと入り込んだ。時計の針が、五時をまわった頃――厳粛な鍬入式を開会するための讃美歌が夕暮れの郊外のたたずまいに美しくハーモニイし始めた。支部長鮫島兄弟の力強い話は、今後の仕事を成功裡に終えさせんとする会員達の証詞と信仰を代表しているものであり、並々ならない力を感じた。次に北海道地方部第一副地方部長松下泰洋兄弟が、声をつまらせて主の恵みに感謝する思いを述べられ、チェディスター監督からは、建築宣教師に対してより以上の協力があるようにお話があり、チニィ監督からは、建築の意義とともに主のシオンを打ち建てんとする気魄の証詞が述べられた。そして伝道部長は、札幌支部の会員すべてが、この仕事を遂行できうるとの全幅の信頼を吐露されたが、長い間の念願がかなった会員達のよろこびは、この伝道部長のことばをどのような思いで耳にしたであろうか。「心は躍る」と歌った詩人がいるが、まさしく希望と主の恵みに心の躍動を禁じえなかったであろう。伝道部長の鍬をはじめ多数の鍬がこの土地に力強くめり込み、ぐいとしゃくりあげられ、肥妖な土壌が黒々と露呈された時、この北国のシオン建設は――確かに、夢でなく、現実に始められたのである。

〝北の国々に在る者たちは、主の前に主を憶えて出で来る。またその予言者たちも、主の声を聞きてもはや抑うる能わず、彼ら巌を打ちて氷その前に流れ下らん〟

北国の聖徒たちは、まさに主を憶えて出て来たのであり彼等の心は精霊に満ち溢れて抑うる能わざるものとなって、その夜から、すぐに伝道部長や監督の忠告や指示を受けつつ活動を開始した。彼等には、火災に遭ってほぼ全焼した以前の建物の改修と新建築の二重の試練があるにも拘らず、先ず、じっと堪え忍んでこの機会を待って尤大なエネルギーが氷解した洪水のように巌を打とうとしているのである。

〝これらの地は、わが僕なるエフライムの子孫に豊かなる財宝を産み出すべし。永遠の山々の境は彼らの前にゆれ動き、北の国々の者はひざまずきて、シオンにおいてエフ

ライムの子孫なる主の僕らの手により栄の冠を受け彼らは永遠の悦びの歌もて満たされん〃

これが初めであって、決して終りではない。北海道地方部の聖徒たちはよく知っている。これから、福祉農場、工場、学校、神殿が恵まれるよう、彼等は祈り、又その実現を信じている。誰れが、これらの者の純なる思いを一笑に付すことができようか。千人近い人々の収容が可能である建物を望んだ時、誰も笑ったものはいない。そして現実に今や着工されているのである。

それであるから、彼らは先ず最初のこの建築をうまくやってのけるであろう。彼らは、うたかたの情熱でそれをなすのではなく、仮りに貧しいやもめであっても、乏しい中から持っている生活費全部を献金したあのレプタ二つを捧げて、お互いが助け合いいたわり合いながら、この仕事を立派にやり遂げるつもりなのである。

なぜなら、これは、初めであって決して終りではないからである。

最後に、この鍬入式の無事に終ることと着工時の円滑を祈って下さっていた上京中の柳沢地方部長に心から感謝しつつ……

――愛読者のみなさまへ――

○「聖徒の道」を製本して販売します。

いままでの出版された「聖徒の道」を一年単位で製本してみなさまの便をはかりたいと思います。

なを製本数には制限がありますので先着順で受けつけます。係まで申し込み下さい。

価格は

一九六一年度	一一〇〇円
一九六二年度	一一〇〇円
一九六三年度	一三〇〇円
一九六四年度	一四〇〇円

○「聖徒の道」個人発送に協力して下さい。

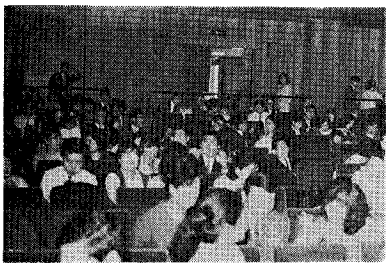
今までは支部単位に聖徒の道を発送していましたが、個人発送にしたいと思いますから協力して下さい。

値段は一年分九百六十円です。

各支部の聖徒の道委員を通じて申し込んで下さい。

西中央地方部

春の大会



鈴木西中央地方部長

伝道部長御家族や、系図の渡部兄弟を御迎えして、当地方部の春の大会は五月十五、十六日の両日、大阪で開催されたが、東は名古屋から西は福岡まで、十一支部からの参加者四二九名、終始霊的な雰囲気に満された会であった。

MIA大会

五月十五日に当るので、アロン神権の回復をテーマとしたプログラムが計画された。

「私はアロン神権者に何を期待するか」と言うテーマで、三人の若い兄弟姉妹からしっかりした証と決心を聞き、関西五支部による神権回復を現わすパジェント、これは素晴らしく立派であって、満堂迫って来る霊的な情感に圧倒される程の感動を与えた後、モルモン紹介のカラー16㎜を映写して終った。

神権会大会

アロン神権会と第二、第六長老定員に分れたが、アロン神権会では四人の兄弟から体験に基く神権者の証を聞くことが出来た。全員再集して伝道部長から、消極的でない積極的な指導につき、東京オリンピック大会に参加したモルモンのうちの一人の、積極的な練習によってかち得た秀れた技能を引例された話があった。指導者たるべき神権者は、自分ばかりでなく会員夫々を勇気づけ励まして、かくれた能力を引出す責任があるのであると。

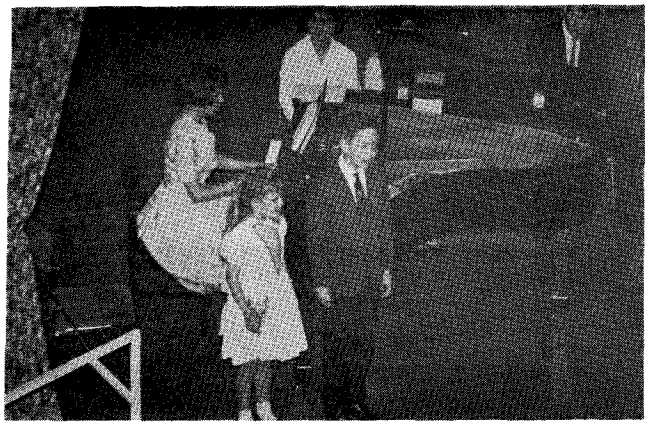
扶助協会

柳田姉妹管理の下に家庭訪問に関するテーマによる、支部、地方部、伝道部の三姉妹の話は、家庭訪問教師の証をはっきりと強め、また扶助協会の本当のあり方について、はらからへの愛の本当の表し方について、皆よく理解することが出来た。

一般大会

一部の午前、二部の午後に分れて行なわれたが、一部に伝道部長の御子さん方のコーラスがあり、夫人と伝道部長のお話が続いた。

コーラスは本当に可愛らしくて、立派なモルモンの家庭の御様子がしのばれた。私達もこのようなお子さんを持ちたいものである。



伝道部長は、電気製品の組み立で一工員が誤配線をしたため、大きな損失をかもしたが教会の仕事についても、一人の人が責任を果さない事から、他の人の良い働きをも害ねて大きな不具合を惹起させる。自分の責任をよく知ってそれを果すと言うことが、どれだけ教会、福音を伝えて人々を救うと言う全体的な仕事に有機的につながるか、と言うことを人の形の各部に型どって説明された。

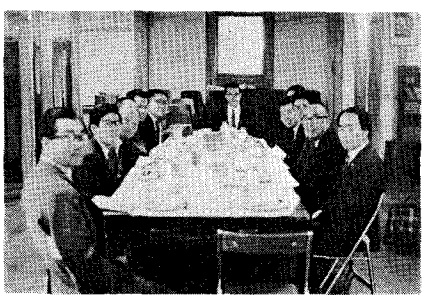
また神の御業が大きくなって来ていることを、往年の集会の写真と現在とを比較されて話されたが、しみじみと我等の成長を知ることが出来た。

二部は渡部系図委員長に次いで、地方部長渡辺副伝道部長の話があった。この間に歌われたが、これは素晴らしく美しいものだった

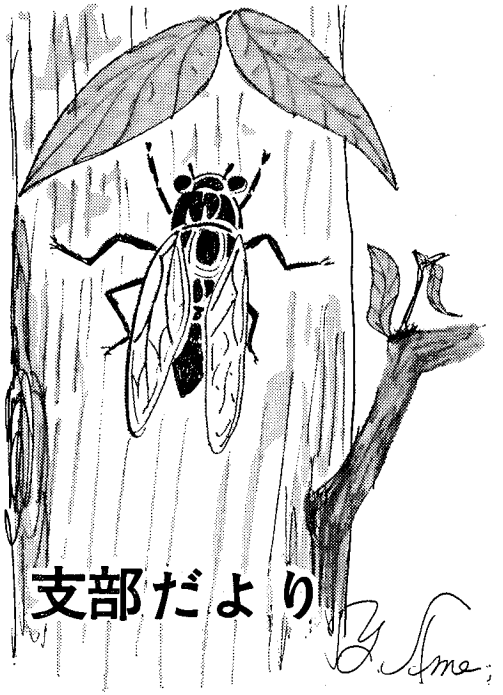
東から来訪された浅田兄弟、田中兄弟、その他宣教師に召された兄弟の美しい話があった。

さて、午後四時に開会となり、この大会は終ったが、大会がスムースに霊的に運ばれた陰に若い神権者の何くれとない細かい働きがあったことを上げたい。

尚、今回の長老昇進は七名でしかなかったし、また長老職の出席率も上乗ではなかったのが一抹の物足りなさを感じさせるが、次の大会には、これらを驚くような数学に変え、大きな悦びを得たいものである。



西中央地方部指導者



旭川支部

各支部の兄弟姉妹今日は。又旭川支部からお便りします。今年の北海道は春が遅く、去年に引続いて又冷害の予想が出されており、農家の人達の中には望みをなくして離農したり、大きな負債の為に死を選ぶ家族も増えています。街の人々には気持の良い春がやって来るのに、彼らには苦労と失望しか期待出来ません。いつの日か近い内に彼らにも本当の春が与えられるように願っています。

支部のニュースに入りますが、今月は支部としての集会のニュースはあまりありません。なぜなら五月の一日二日三日と三日間にわたって開かれる北海道地方部大会が旭川で行なわれる為に、その準備に会員達は大わらわだったからです。旭川で開かれるのは二年に一度位ですから会員達は何とかすばらしいものにしたいと一生懸命。おかげで三日間の大会は大成功でした。

五月一日はＭＩＡ。ダンスの夕べでフォークダンスとツシャルダンスの支部対抗試合をしました。それぞれの支部では今までの努力の成果を見せようと、色とりどりの衣装に身をかざって、あざやかな踊りを披露しました。優勝杯は残念ながら札幌支部におゆずりしましたが、旭川支部のタレントは悔いのない表情で、拍手を送られておりました。

五月二日は一般大会。お話はおもに神権者の責任についてでしたので、兄弟達は熱心にお話を聞いておりましたが、姉妹の中には時々コックリとうなづいているので、なんて熱心に聞いているのかしらと思って見ると、そのうなづきは居眠りの方のコックリであったりして、ふき出してしまいました。

同日の夜はファイヤサイド。いくつかのグループに分れて各々の支部と名前を紹介しあい又、アメリカの世界博に出品されたモルモン紹介の十六ミリ映画を観賞し、この頃にはすっかり各支部の兄弟姉妹達はうちとけ合いました。次の日の三日に行なわれたピクニックは、大会の最後をかざるのにふさわしいものでした。

五月三日、憲法記念日。午前十時までに旭川の郊外にある神楽岡公園入口に集合し、そこから少し奥に入ったところにある広場に陣を取り、ゲームやスポーツに精を出しました。その中でお腹の皮がよじれるほど笑っても笑っても笑い切れなかったゲームは、各支部から一人の代表者（兄弟）が目かくしをさ

れて前に立ち、残りの会員達がリレー式で代表者にスカートや女性用セーター。そしてネックレス、帽子を着せ、終ってから目隠しを取りポーズをとってあいさつをしてもらったものです。各支部より抜きのスマートな兄弟が、ファッションモデル顔負けのポーズを取ってあいさつすると、まわりは笑いのウズ。姉妹の中には涙を流して笑っている人も居りました。その他、ソフトボールなど種々のスポーツを楽しみ、そしてなによりも楽しいお弁当を食べて一日を過しました。

すべての集会を終えて今度は旭川駅へお見送り。すっかりうちとけた会員達は〝ガンバロウネ！〟と呼びかけ合い握手し合いながら別れてゆきました。

聖徒の道五月号支部便りに旭川支部の木谷兄弟が建築宣教師に召された事をお知らせしましたが、都合により受ける事が出来なくなりましたのでお知らせしておきます。

又、旭川支部では今までにフェローシップに力を入れておりましたが、その効果が次第に現われて来ており、会員達はおおいにはりきっております。

では全国の兄弟姉妹、一緒にガンバロウネ！

横浜支部

全国の親愛なる兄弟姉妹、今日は。

海に面した横浜支部には、もう初夏を思わせる程の陽気が続いています。それでは潮風がにおう横浜について少し紹介しましょう。横浜は世界有数の国際港で港には、世界各国の豪華客船や貨物船が、多数出入りするのを望むことができ、映画やテレビの舞台となる「港の見える丘公園」「外人墓地」「中華街」「マリンタワー」などがあり、エキゾチックなムードをかもし出し、外国人も多く異国情緒たっぷりです。その中にある横浜支部は、小高い丘に面し、静寂で、教会の隣りには、松と芝生の公園があり、小高い丘からは、美しい横浜港を望むことができ、そして日本の象徴である所の、富士山を仰ぐことができるという、絶好の環境の地にあります。このような所で、多くの集会をもてることは大変幸わせに思います。しかしながら、まだその場所で集会を持つことができません。新しい教会堂を建築中だからです。それではそのすばらしい教会堂についてお話し致しましょう。

その新しい教会堂は、地上二階、地下一階の鉄筋コンクリート建築で、その費用は約八千万円という、ぼうだいな予算になっています。現在、地下の一階の基礎が終り、これから日、一日と上の方へと伸びて行きます。そしてすばらしい教会堂の完成は、今年の十二月の予定です。だから何とかクリスマスには新しい教会堂で過したい気持でいっぱいです。そして完成の暁には、全国一の規模と内容のある、充実したものにしたいと、私達横浜支部の兄弟姉妹はま今から胸の高なる思いです。それではこのすばらしい教会堂で建築をしておられる建築宣教師を紹介致します。

小泉裕功長老、吉川利夫長老、青木喜久雄長老、紫藤寿人長老、中田和彦長老、坪内憲二兄弟です。なお横浜支部で建築のために働いておられた横山正長老は札幌支部建築のために転勤されました。札幌支部での今後の活躍が期待されます。

次に地方の支部から、横浜支部に新しく移って来られたすばらしい兄弟姉妹を紹介致します。畑中陽夫兄弟（小樽支部から大学進学のため）石原昭治兄弟（三ノ宮支部から大学進学のため）岡本亮兄弟（京都支部から会社勤務のため）赤沢兄弟（新潟支部から会社勤務のため）鈴木兄弟（山形支部から大学進学のため）清水浩子姉妹（新潟支部から大学

進学のため）

それぞれ新しく横浜支部の兄弟姉妹として今後の精進が期待されます。

現在、私たちの教会堂は建築中のため、建築が完成するまでの間、日曜学校は若草幼稚園を、MIAは毎週水曜日、神奈川ガールスカウト会館を、フェローシッピングスクールは第二土曜日と第四土曜日に、宣教師宅において、誕生会は、毎月第二金曜日夜、宣教師宅で行なっています。ところで誕生会は、真新しい言葉だと思いますので簡単に説明致しましょう。

これは、横浜支部において今年の三月から新しく計画実行されたものです。内容は、その月にバブテスマを受けた会員に対して、いろいろと祝い、ゲーム、コーラス、食事などをして、楽しい夕べの一時を過ごします。

次に横浜支部における最新の充実した補助組織の役員をお知らせ致します。（五月十六日現在）

（支部長会）支部長　斉藤勉、第一副　遠藤大、第二副　板倉秀樹、統計書記　中井敦、補　西条誠司、会計書記　福井弥、（アロン神権成人）主事　岡本亮、（アロン神権青少年）主事　板倉秀樹、（長老定員会）グループリーダー　岩井邦次、教師　上野道男、（扶助協会）会長　柏倉朝子、第一副　星留美子、第二副　斉藤淳、会計書記　相良真弓、統計書記　水島孝、（日曜学校）会長　福井弥、第一副　斉内直久、第二副　未定、書記　平野英雄、補　松下順子、補　守屋富美子（子供日曜学校）責任者　渡部正和、補　小林和子、書記　金田直美、補　渡久地信子、（MIA）顧問　遠藤大、YM会長　小菅靖夫、第一副　伊藤哲司、第二副　紫藤寿人、書記　佐々木裕、YW会長　水島孝、第一副　崎谷美耶子第二副　青木春美、書記　水島清、（系図委員会）委員長　森島道朗、第一副　村松輝久、第二副　畑中陽夫、書記　山下八重子、（フェローシップ委員会）委員長　青柳弘一、第一副　坪内憲二、第二副　玉川道子、書記　守屋よしえ、（美化委員会）委員長　吉川利夫、書記　鈴木悦子、（聖徒の道委員会）委員長　福地雅次、副　青木喜久雄、書記　中田和彦、（発表委員会）委員長　熊木隆之、第一副　石原昭治、第二副　清水浩子、書記　本川チヤ子

（注）発表委員会は、横浜支部で新しく組織されたもので、行事予定発表、支部新聞作成支部誕生会計画などを主な仕事とします。

（建築委員会）委員長　斉藤勉、書記　中井敦、会計　遠藤大、（音楽委員）畑中陽夫、山本俊一、渡部聖子、鈴木悦子、金田直美

最後に五月の連休を利用した支部大会について少し述べましょう。大会は三日から始まり、九日で終りました。大会テーマが建築に関してなので、建築のプログラムが多く組まれました。三日は建築会でしたが雨天で中止五日は昼間建築で、夜はMIA特別プログラムがありました。特別プログラム内容は、音楽クイズ（いろいろな曲を早く言いあてる）や、フォークダンスなどがあり、なごやかな雰囲気のもとで、皆楽しく過ごせました。八日夜はフェローシッピング親睦会が開かれました。コーラスやゲーム、デザートなどもで、満足すべきものでした。九日の大会は、母の日と重なったせいか、出席者の少ないのには驚かされました。しかし、児玉栄治兄弟や、今井一男兄弟の熱弁には、出席者の少ないのもふっとぶような感じでした。そして斉藤支部長を初めとする横浜支部の多くの兄弟姉妹のすばらしいお話や証詞には、誰しもが感動したと思います。それでは全国の愛する兄弟姉妹の皆さん、次の聖徒の道であいましよう。それまでお元気で!!　熊本隆之兄弟記

新潟支部

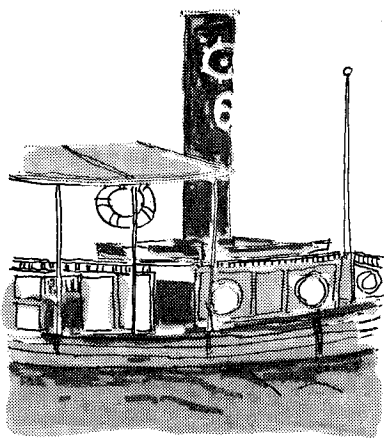
聖徒の道愛読者の皆さん今日は、先月号で御約束をしました五月五日のバザーの模様をお伝えしましょう。

当日は朝九時から店を出しました。売物は使用しなくなった物でまだ使用に堪えられそうなもの、破れたジャンバー、靴、サイフ、（外に比べて中の痛みが少ない）古本（立ち読みが多くて売れず仕舞、本屋さんの気持よく分るなあ）スカート、その他いっぱい。

例によって食券を売りましたが値段？いい事いい事？、その御蔭で大分支部が助かったそうです。文句は言えませんね。でもゼリーだけは大好評で足りなくなり又作ったとか、ではその作り方を、ゼリーの中にバナナ、ミカン、黄桃、ミルク少々を入れ冷せば出来上り、どこから見ても五十円、皆さんの支部でも如何ですか？

最近各兄弟姉妹の写真を組織長の中に入れ（中央支部でもやってましたね）誰が誰か直ぐ分る様になりました。又教会幹部の方々の写真も、でも二つは並べて居きません、見比べると我々が少し見劣りしますから。会堂には世界各地の全神殿の写真、キリストの御弟子達の絵が飾られ美しくなりました。これは皆支部長シロダ長老（七月下旬に任期終了で本国へ、残念です）の腕前です。

では又の機会まで。



（318ページより）

教会の全会員はこの神殿計画を実現した山中兄弟のうむことを知らない努力に負うており深く感謝しなければなりません。

神殿訪問は、この地に於ける神の王国の発展に実に大きな効果をもたらすものであります。

生者と死者の両者の神殿の儀式の扉を開く外に、それは指導者たちをして、より価値ある生活をし、指導者たる能力を進歩させようと努めさせるでありましょう。

今回の計画、が引続き家族たちが神殿に行って聖なるエンダウメントと現世に於て又永遠に結び固められる儀式を受けようと準備するスタートとなりますように、又この投ぜられた一石が、アジヤに於ける教会の全般的な計画に発展しますように。

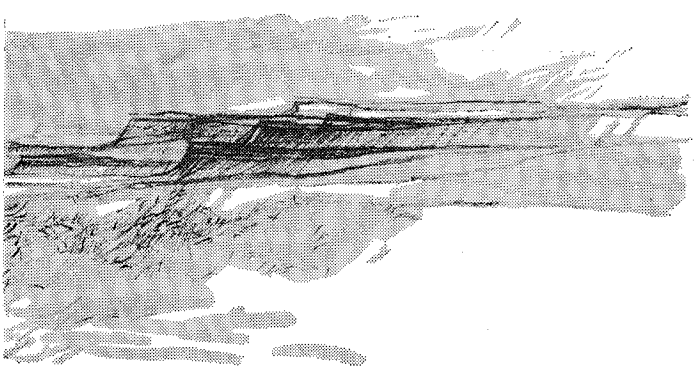
ユタへ

エドワード・L・ハート

、、到　着

誰もこの地を欲しなかった
スペイン人はそれを見て背を向けた
猟師は毛皮の包の為に
或はこの地が気に入ったのか
塩けの風をがまんした。

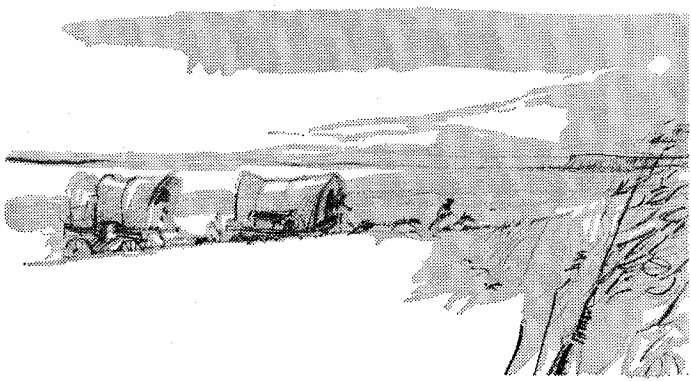
開拓者たちが西方をめざした時
彼らが選んだのはカリフォルニヤであった。
彼らはこの地がその途中に
いばらと焼け砂で立ちはだかっているのを呪った。



七月末の太陽が
岩の頭を焼け焦がした
幌馬車隊が過ぎて行く
焼けつく空に
一瞬の岩陰
今や隊は一線上に
波打つ岡越え
灌木にふれて
インデアンの歴史を秘めた石ころが
犁にふれてとびちった。

二、市街の建設

六分儀がとらえた光線
月から反射して大盆地へ
ブリガム・ヤングの杖の先
ここに神殿を建てるのだ。



サウス・テムプルを抱くメイン街
基の条が東西に走る
時と場所の新しき絶頂
この輝く格子に宇宙は始まる。

三、集　合

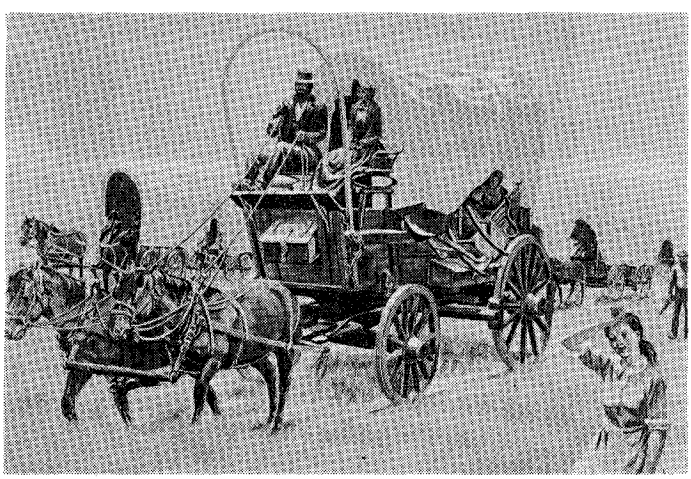
数千の群はゆっくりと進んだ
ハウンツミル、フローレンス
或は名もなき旅路に葬った
その人々を後に残して
若人は叫ぶ、次の岡越え
我が家を見出さんと
砂漠の彼方に
緑したたる草原を
彼らは来た。山脈越えて

ホーン岬を船で廻って
笞打つ幌馬車、ひきずる手車
石や氷の大地を踏んで
しばしばその地は掘りかえされた
女や子供たちを或は又
息絶えて手車の桟に
うつぶせた男を
土まんじゅうにおおうため
よしいとよしシオンへと。

四、火の備え

(1)市街を去る

貴方は市街を建てた。
そして今、見捨てて行く
燃してしまうかも知れない。
朝の幌馬車に一ぱい積んで



みんな南へ行ってしまった。

残された家の前に
積み重ねられたわら束
いつでも火がつけれるんだ
誰知ろうか　我らの行く先
ソノラか　何と遠い道。

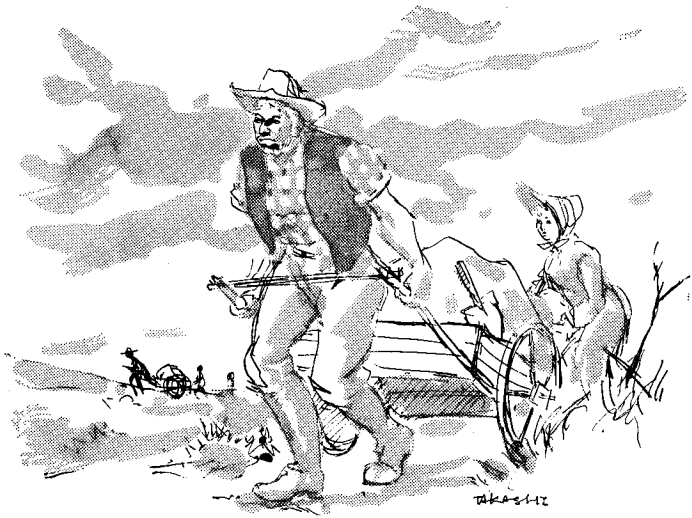
(2)松明持ちへの命令

既に決った。それが合図だ
若したった一人の兵士が
野蛮な腕を差伸べて
匙一本を使うとも
薪一本に触れようとも
市街は忽ち火の海だ
兵士らに二度と

我らの手を縛ばせられようか
再び暴徒のために
我らを手なずけ
土中にぬりつぶしさせられるか
ジョセフの体はポンプ台にかけられ
彼を守るため遣わされた
兵士ら自身によって標的とされた
その事が起る前に我らは
この市街を火でならすのだ
そして過ぎにし灰を彼らに残そう。

(3)アルバート・シドニー・ジョンストン将軍
ソルトレーク市を行進する。

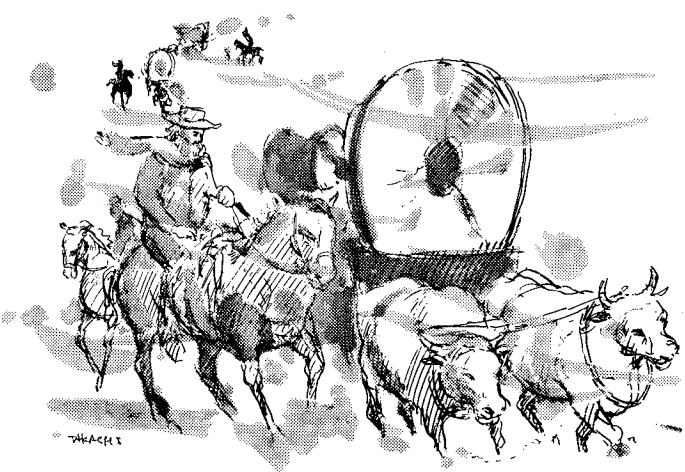
連合軍前衛の
第五歩兵の銃剣が
朝日にギラギラ光って進む



弾薬車がガラガラと
人影なき街を土煙を立てて
鎖された空屋から谷間の壁に
響きわたる山彦に和して
岡からかんばしこおろぎの声。

五、展　開

多くの場所から定めた一つ
行って克ち取る　インデアンから
虫からリスから乾燥から
若し南方に行ったとせよ
北アリゾナの帯の中
裂けたる岩、グランド・キャニオンの上
パイプ・スプリングへ
隣家の子と遊ぶため
二百哩も呼びに行かねばならぬところ



住まねばならぬ幾歳月。

六、神　殿

地球は暗き揺籃の
核心徐々に冷える時
御影石は雲母の破片と
石英のさやに
長石と角閃石の花のまわりに
季節の雨風はうす皮を流し
光はキラキラ反射した。
切り出された霜のような
正長石の型から
えぐり取られた一塊が
遂に神殿絶頂の笠石となった。

ストーカー長老と日本語聖書

日本伝道部は一九〇一年九月一日ヒーバー・J・グラント伝道部長（七代目大管長）テイラー・エンサイン・ケルチの三長老の横浜鶯山に於ける献納の祈りによって開かれたのですが二年後にグラント部長は解任されエンサイン・ケルチの二長老は新しい宣教師と代りました。この時新しく交代して来た一人がJ・W・ストーカー長老で彼はテイラー長老を助けて始めてモルモン経を日本語に訳しました。彼は現在八十三才位でまだ元気でソルト・レークに住んで居り今でも美しい日本語で一九〇五年彼によってバプテスマを受けた日本で最初の鈴木なみ姉妹に手紙をよく書いて来ます。最近彼は鈴木なみ姉妹に日本語の皮表紙の新旧両約聖書を送ってもらい度いと送金して来ました。私はなみ姉妹に頼まれて早速本部で求めて送りましたが明治神宮も出来ない前にあそこの小川で日本人にバプテスマを施した宣教師が未だに日夜、日本のことを思って日本語の聖典で勉強を続けて行かれる姿を思い浮べ、只々感激感謝の念に眼頭が熱くなるのでした。

〝およそ、われらのこの世に於て達する英智の一切は何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし　されば、もしある人ありて精励従順によりこの世に於て他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば未来の世に於てそれだけ利を得べし〟

偉大なるストーカー長老の愛と勉学に学ぼうではありませんか。

（渡　部）

神殿の祝福

―物語―

ジョンは今年二十五才の会社員。十七才の時に始めてモルモンの宣教師に福音を紹介され、過去の罪を悔い改めて、強い証をもってバプテスマを受けた。

その後活発に教会活動に加わり、彼の信仰は生活となって成長していった。

アロン神権を授けられてから数ケ月後メルケゼデク神権も与えられた。

ジョンはステーキ部のＭＩＡのダンスパーテーでさわやかな感じの姉妹メアリに会い六カ月余りの交際の結果彼女を永遠の伴侶として選んだ。

彼等は神殿結婚という儀式を受ける計画をしてそれにふさわしく純潔を尊び清く交際していた。

メアリの両親は自分たちも神殿結婚をしていたのでこの二人の婚約を喜び祝福した。

ジョンの両親は教会に改宗され入ったが名ばかりであまり熱心ではなかったが息子ジョンの信仰に影響を受けジョンが結婚をするときには、自分達も神殿で永遠の結婚をしジョンと二人の娘をも親子として永遠に結び固められるよう神の誡めを出来る限り完全に守り神殿へ入る資格を得ようと決心した。

まずジョンの父は毎週神権会へ出席すると同時に妻と娘達と共に日曜日の集会に出席し安息日を聖く保つようになった。

払いしぶっていた什分の一も完全に払った。言いわけをして破っていた知恵の言葉も断食献金も守るようになった。

そうするうちにジョンの父はこの福音の偉大さと素晴しさとその真実なることをはっきりと身にしみてわかるようになった。

ワード部ではＹＭＭＩＡの会長という大切な責任まで与えられるようになった。

ワード部の監督はジョン親子の二代の神殿結婚を喜びジョンとジョンの両親とを別々に個人面接しその資格を確認した。

メアリもメアリのワード部の監督に面接された。

それから後にステーキ部長により一人一人面接されて神殿へ入るための準備が出来ていて資格のある事を確認され推せん状を渡され

た。その日は美しい日であった。

神殿はいつもの見なれた神殿のようには見えなかった。始めて神殿のなかへ入ってジョンもメアリもその内部の外部にも優る美しさに目を見はった。

神殿内一ぱいにあふれる暖かい落ちついたしかも優美な色調、立派な調度品、床にはりつめられたやわらかく静かなジュウタン。

重くずっしりと俗世界をさえぎるように降りている幕……。

絹ずれの心地よい音のきこえるほどの厳粛な静けさであったが、そこにいる人々の顔にはほほえみと平和と信仰との美が満ちていた。

神殿で常時働く人々は皆白い服を着て親切にいろいろと教えてくれた。

身も引きしまる神々しいその雰囲気は外の世界のものとは全く別個のもので厚いカベによってこの別世界は完全にかくりされている感じだった。メアリの他に三人この日永遠に結ばれる花嫁がいた。この四人は鏡に囲まれた一室に導かれそこで持参した思い思いのウェデングドレスに着かえた。メアリのは半袖であったため神殿に準備されていた長袖のボレロのようなものを神殿に行く姉妹がやさしく着せてくれた。夢にもみたこの日、この姿、メアリは鏡にうつる自分の晴姿を見て胸のあつくなるのを覚えた。着がえを終った花嫁達はそこで神殿管理会長の奥さんである姉妹から短かいが美しい母親のように心を使った話をきいた。この日から着る事の出来る特別のガ

ーメントの取り扱い方も教えられた。

このガーメントは神聖なマークのついた下着であった。それはエンダウメントの聖なる神様とかわした約束をいつも忘れずにいるためと身体の保護のためのガーメントでそのマークの意味はエンダウメントの中で説明されるといわれた。

いよいよエンダウメントの儀式がはじまった。まずは洗いの儀式を受けそれから百五十人位の人々と一室に集った兄弟達は通路をへだてた一方に姉妹達はその反対側に着席した。

これらの人々はジョンやメアリ達のように始めて神殿へ来て自分のためのエンダウメントを受ける人々と自分のはもうすませてある死者の身代りにその死者の名をもらってエンダウメントを受けている人々であった。

なかにはもう二千回以上も神殿へ通い二千人以上の死者のためにエンダウメントを受けたという老婦人もいた。そこで神殿の神聖さとその中で行なわれる儀式の神聖さとエンダウメントのがい要を説明され又その神聖さゆえに神殿外ではこれら神殿内の儀式についてくわしく口に出すことは出来ないと教えられた。

「見よ、何等忠実にしてわが前に引きつづきへりくだらば、われ大いなるエンダウメントを彼らに授けまた祝福を注がんものと用意せり」（教義と聖約百五章十二節）と言う聖句をジョンは思い出した。

いくつかの新しい聖約とそれにともなう祝福と神の王国において永遠に使われる自分の名前と神の王国において使われるサインの数々等を教えられジョンの胸はいっぱいになった。通路の向うに並んだ美しい姉妹たちのなかにメアリを見た。彼は本当に感謝した。

この美しく素晴しい姉妹を永遠に伴侶として苦しみも悲しみも幸福もすべて分かちあって行かれる。沢山の素晴しい子供達も出来る。そして終りまで神の教えに忠実ならば、みんな一緒に日の栄光でいつまでも結ばれて家族として住める日の栄光……きっとこの神殿の中にあるような神々しい平和と美と幸福があるのだろうとジョンは思った。エンダウメントは一時間半ぐらいで終った。

美しい日の栄光の部屋ではエンダウメントを終えた人々が三々五々集まり胸の中の喜びをつつみかくさずほほを赤らめて楽しく話し合っていた。でも高い声やざわめき高笑いは聞かれなかった。

ジョンとメアリ、家族達と親せき、友達は結び固めの部屋へ通された。こじんまりとした小さな部屋ではあったがじゅうたん、かべ椅子、天井、カーテンすべて何ともいわれないやわらかな美しい色と材料とが使ってあってこの世のどこでも神殿内以外では見られないものであった。

真中にはアルター（聖だん）と呼ばれるひざまづいて胸のあたりまでくる高さで新郎新婦が手をにぎり合えるくらいのはばのふっくらとやわらかくブロケードでおおわれただんがあった。

神殿管理会長が真中の一殿高い椅子に坐り二人の証人を両わきに坐らせジョンとメアリとはアルターを中心にしてひざまづくように言われた。ジョンもメアリも儀式にさきだって神殿管理会長が優しく愛と祝福にみちたまなざしで結婚の神聖さとその日彼と幸福などについて話されるのを夢ごこちできいた。

儀式は十分にも足りないと思われる短かなものであったがそのなかで言われた一つ一つの言葉は鏡のように頭の中でなりひびくように感じた。メアリの目から涙がポロポロ落ちた。永遠に結ばれたのだ。しかも神権の力によって。

そうしてジョンはジョンの両親の神殿結婚に立ち合いすぐあとで二人の妹と共に両親と永遠に結び固められた。

ジョンとメアリは結婚後も何度となく神殿へ行った。今度は死者のために……しかし行くたびに何か新しい事を学び新しい力を得て来るのを感じた。二人は同時に系図の調査をやりはじめた。はじめは未知の世界であったが少しづつさかのぼって先祖のことがわかってくるとその仕事の面白さと重大さに強く動かされた。親せきの人々の助けも得た。

先祖が来たと思われるヨーロッパの国々の系図家に手紙を出して援助を頼んだ。

電話帳を見て同姓の人々を探して手紙も書いた。図書館にも通った。そして新しく情報のわかるたびにファミリーグループシートに書き込み一日も早くこの人々にも救いがもたらされるようなソートレークの系図委員会へ送った。

ジョンとメアリにも赤ちゃんが授った。でもこの子は神殿へ連れ

て行って結び固める必要はなかった。なぜならジョンとメアリはすでに永遠の結婚により結び固められていたから。それに子供は皆聖約の子として永遠に二つに固められるからだった。

ジョンは可愛いい我が子の顔をみつめ、この子が八才になりバプテスマを受けてから死者のために神殿で身代りにバプテスマを受ける日の事を思った。そしてエンダウメントを受け、ついには神殿で結婚する日の事も思った。

何と偉大な何と素晴しい何と美しい神の御計画であろうか。……

編集後記

○梅雨空はなんとも重苦しい気分である。早く梅雨あけをと願うのは誰しも同じことであろう。早く夏の青空をみあげたいものです。

○今月の聖徒の道を手にとられればすぐわかると思いますが地方部のページが出来ました。毎月の地方部からの便りが届くことを心待ちにしたいと思います。残念ながら東中央地方部と沖縄地方部からの便りがありませんでした。

○今月はまた開拓者の精神を称える記事と詩を載せてみました。今、日本においてはまさに開拓の時期であります。みなさまとともにこの開拓の時代に力をあわせて頑張りたいと思います。

○聖徒の道委員の方々にお願い。

支部あての連絡は出来るだけ早く係までお便り下さい。

—松浦記—

ENGLISH PLAN FOR JULY

TEN. . . NINE. . . EIGHT. . .

by D. R. Kearns

The rocket is ready,
  The people are tense,
Now, here is the countdown——
  Stay back of that fence!
The fuse is ignited,
  It's off with a roar!
The onlookers gasp
  As they witness it soar.
Will it land on a planet
  Way up in the sky?
Not *this* firework rocket
  On the *Fourth of July!*

Ca You Find the Opposite Word?

by Betty Lee

An antonym is a word that is opposite in meaning. Draw a line to the word that means the opposite.

light	near
stop	cold
fir	dark
hot	hard
soft	go
calm	down
night	day
up	stormy

MUMBERS PUZZLE

by Adelyn Jackson Richards

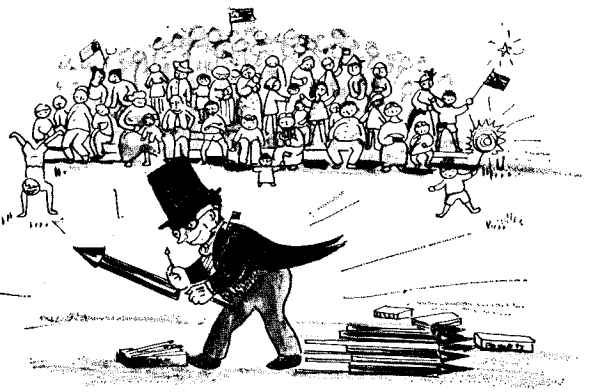
From the number of ounces in a pouud, shbtract the number of eggs in a dozen, then add the number of inches in ayatd. From this, subtract the number of quarts in a bushel, then multiply by the number of pints in a quart. Now divide by the number of seasons in a year.

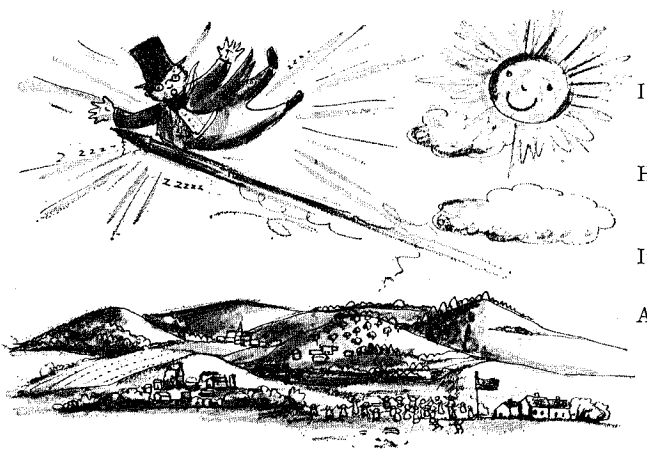
What is your answer?

THE MISCHIEVOUS ROCKET

by Ernestine Cobern Beyer
illustrated by Elizabeth Williamson

Mayor O'Flannigan,
genial and spry,
Was setting off rockets
one Fourth of July,
When all of a sudden,
the crowd gave a
shout
For the Mayor was leap-
ing and running
about!





I leaned from my
seat as I saw that
a rocket
Had caught in a rip
on O'Flannigan's
pocket.
It sizzled a moment
as rockets all do,
And then it went off
—and the mayor
went, too!

High over rooftops and valleys and parks—

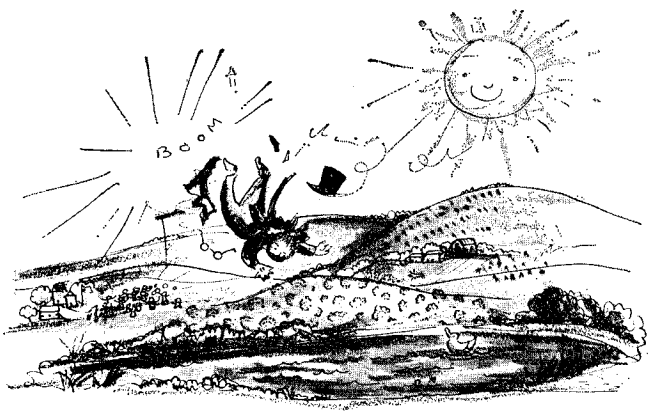
Up went O'Flannigan, shooting off sparks!

Then the rocket said "boom!" in a rollicking voice,

Since then, I admit I am likely to scoff

At well-behaved rockets that merely go off,

For I like a rocket that's daring and gay—



And the mayor came down! (He had no other choice.)

His hat flew away and his coattails unravelled

As straight for the earth he unwillingly travelled.

Then, ending his trip with a good deal of dash,

He fell in a lake with a spirited splash.

Emerging, he looked rather funny, I vow,

With a little green frog decorating his brow.

Like the one that went off with the mayor, that day!

"... the Constitution of our Country"

RICHARD L. EVANS

Each hour we live we have more reason to be grateful both for liberty and for law and for the inspired Constitution that makes these priceless things possible. And so another anniversary of the Constitution suggests some comment. Except for an occasional look back into history or an occasional present comparison, it seems we have too little awareness of what the Constitution means in its safeguards to freedom and personal privacy. Always there are those who would encroach upon men's liberties and lives, those who would intrude too much upon the freedom and privacy of people. James Madison said: ". . . If men were angels, no government would be necessary. . . . In framing a government which is to be administered by men over men, the great difficulty lies in this: you must first enable the government to control the governed; and in the next place oblige it to control itself."[1] This is a delicate balance. There is no faultless wisdom among men, and no certainty as to the temperance of power or opinion. All are human; all make mistakes, and thus we need the safeguards, the checks and balances, that permit a maximum of liberty within the least essential amount of law. And so we thank God for the free agency of man and for what, under Divine Providence, our fathers fashioned for us. But "Liberty lies in the hearts of men and women," said a highly competent source, and "when it dies there, no constitution, no law, no court can save it."[2] Concerning the Constitution, George Washington said: ". . . It will be so much beyond anything we had a right to imagine or expect . . . that it will demonstrate as visibly the finger of Providence, as any possible event in the course of human affairs can ever designate it."[3] ". . . Let us take heed to our ways," said William Maxwell Evarts, "and while it is called today resolve that the great heritage we have received shall be handed down through the long line of the advancing generations. . . ."[4] "Nothing is more shameful for a man than to . . . enjoy it without transmitting it to the next generation, . . ."[5] God grant that we may more often remind ourselves of what our fathers fought for, lived for, died for, that ". . . this land shall be a land of liberty."[6] —and, in Franklin's words—"that not only the love of liberty, but a thorough knowledge of the rights of man, may pervade all the nations of the earth, . . ."[7]

---

[1]James Madison, *The Federalist*, No. 51, February 8, 1788.
[2]Judge Learned Hand.
[3]George Washington to Marquis de Lafayette, May 28, 1788.
[4]William Maxwell Evarts, "What the Age Owes to America." From centennial oration delivered at Philadelphia July 4, 1876.
[5]Charles Sumner, Senator, Chairman for ten years of the Committee on Foreign Relations Oration on the True Grandeur of Nations, delivered in Boston, July 4, 1845.
[6]2 Nephi 10:10-14.
[7]Benjamin Franklin to David Hartley, December 4, 1789.

"The Spoken Word," from Temple Square presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, September 16, 1962. Copyright 1962.

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円
教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円
モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円
神の王国……230円
基督・イエス……300円

日曜学校用

モルモン経物語……150円
旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ(上)(下)……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我ら指導者のことば……200円
我らは信じる……200円
我らは生きる（1965年度テキスト）……120円
我らは奉仕する……150円
生活の目標……150円
今日の十誡（1965年度テキスト）……250円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリエーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICHI
Volume 9, July 1965, Number 7
THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION
TEL (473) 1613. 14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二一一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二一八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目
電話（六三一七八六六）

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五
電話（二一七一二一）

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市幸町三八四　百瀬方
電話（二一一六〇〇）

新潟　新潟市中大畑町五五七
電話（二一八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（二五一〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇八一三三〇七）

東京北　東京都中野区江原町一ノ八ノ十四
電話（九五二）一五三一

東京東　東京都江戸川区小岩町六一七八〇
電話（六五七一五二二三）

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七二九一六三一一）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七
電話（二一六七六四）

山形　山形市七日町四丁目十二ノ二十三

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九一八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六二一一八三二七）

福岡　福岡市浄水町四六
電話（五二一八六五三）

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三一一六一三五）

金沢　金沢市上胡桃町一一

京都　京都市左京区下鴨松原町四四

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三一四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五一〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二一一三三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六一二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾市野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二一四〇一〇）

聖徒の道

1965年7月1日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14　(473) 1613
印刷所　合名会社　三五堂

定価　八〇円

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）第九巻第七号　一九六五年七月号